

新しい年の最初の主の日、神さまの御前に集まり礼拝を献げています。神さまが、みんなを守って下さいます。だからこそ、受験するお友だちもいるし、新しいことにチャレンジするお友だちもいるかもしれませんが、何か苦しいこと、困ったことがあれば、神さまにお祈りして頂きたいと思います。

さて、新しい年になり、教会学校の学びも新しい所から学びます。と言っても、みんなはずでに聞いてきたことかもしれません。世界、宇宙が始まる前、どのような状態だったか知っていますか？ 何も無い状態、父・子・聖霊の神さまだけがおられました。そして神さまは、宇宙を創り、人間を造ることを計画されます。

みんなは、新しい年になって、計画や目標を立てた人はいるでしょうか？ 計画や目標を立てたら、一生懸命にしなければなりません。でも計画してても、できないこともあります。先生もそうした経験があります。

しかし、神さまの計画は違います。神さまは計画したことを、すべて行うことができるお方です。そしてこの時に、神さまは、みんなが生まれることも、これから生まれてくる赤ちゃんがいることも、そしてみんなが天国が行けるように、計画を立てて下さいました。そしてその計画は、神さまを信じる私たちが、天国に行って、いつまでも楽しんで生きることができるものでした。

私たちは計画したことをするために、勉強したり、練習したりしなければなりません。しかし神さまが計画したことを実行するのは、声を出して語られることでした。

最初、何もない状態でしたが、神さまが「光あれ」と語られることによって、光ができました。光と暗闇が別れたのです。昼と夜ができたのです。

次に「水の中に大空あれ。水と水を分けよ」と語られることにより、空気ができました。

「天の下に水は一つの所に集まれ。乾いた所が現れよ」と語られることにより、陸地と海とが別れました。

このように、神さまはなんでも行う力を持っておられるから、なにもない中から、言葉において、すべてを創ることがおできになりました。このような神さまに、みんなも、そして教会に集っているみんなも、生命が与えられ、恵みに満たされていることをお覚え頂きたいと想います。

お祈りします

イエスさま、何もないところから、神さまがことばにおいてすべてをおつくり下さったことに感謝します。どうか、私たちもかみさまによって創られた者として、神さまを信じ、神さまの語られる御言葉に従うことができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「**光あれ。**」こうして、光があった。神は光を見て、**良しとされた**。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。**第一の日である。**

神は言われた。「**水の中に大空あれ。水と水を分けよ。**」神は大空を造り、大空の下と大空の上に水を分けさせられた。そのようになった。神は大空を天と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。**第二の日である。**

神は言われた。「**天の下の水は一つ所に集まれ。乾いた所が現れよ。**」そのようになった。神は乾いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼ばれた。神はこれを見て、**良しとされた**。神は言われた。「**地は草を芽生えさせよ。種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける果樹を、地に芽生えさせよ。**」そのようになった。地は草を芽生えさせ、それぞれの種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける木を芽生えさせた。神はこれを見て、**良しとされた**。夕べがあり、朝があった。**第三の日である。**

神は言われた。「**天の大空に光る物があって、昼と夜を分け、季節のしるし、日や年のしるしとなれ。**」**天の大空に光る物があって、地を照らせ。**」そのようになった。神は二つの大きな光る物と星を造り、大きな方に昼を治めさせ、小さな方に夜を治めさせられた。神はそれらを天の大空に置いて、地を照らせ、昼と夜を治めさせ、光と闇を分けさせられた。神はこれを見て、**良しとされた**。夕べがあり、朝があった。**第四の日である。**

神は言われた。「**生き物が水の中に群がれ。鳥は地の上、天の大空の面を飛べ。**」神は水に群がるもの、すなわち大きな怪物、うごめく生き物をそれぞれに、また、翼ある鳥をそれぞれに創造された。神はこれを見て、**良しとされた**。神はそれらのものを祝福して言われた。「**産めよ、増えよ、海の水に満ちよ。鳥は地の上に増えよ。**」夕べがあり、朝があった。**第五の日である。**

神は言われた。「**地は、それぞれの生き物を産み出せ。家畜、這うもの、地の獣をそれぞれに産み出せ。**」そのようになった。神はそれぞれの地の獣、それぞれの家畜、それぞれの土を這うものを造られた。神はこれを見て、**良しとされた**。神は言われた。「**我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。**」神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「**産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。**」神は言われた。「**見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう。**」そのようになった。神はお造りになったすべてのものを御覧になった。**見よ、それは極めて良かった**。夕べがあり、朝があった。**第六の日である。**

神さまは、最初に「光あれ」と語られることにより世界を創り始められ、6日間で、すべてを創られました。そして6日目の最後に、私たち人間をお創り下さいました。

「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。

そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」

ここに、特別な言葉が語られています。神さまが「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」と語られたのです。父・子・聖霊の神の交わりの内において、その神にかたどって私たち人間をお造り下さったのです。神さまにとって人間は、特別な存在です。だからこそ、先生は、毎週のように、神さまはみんなのことが大好きだと語っていますね。一番大切な存在として、神さまは私たち人間をお造り下さったのです。

そして「神にかたどって」人が造られたということは、神さまとの交わりをもって生きる者、神さまを礼拝することが、私たち人間にとって、一番大切な、そして喜びであることを語っています。

そしてここではもう一つ大切なことが語られています。それは、すべての生き物、海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを人間が支配することです。人間が支配し、管理することは、生き物だけではありません。神さまが創って下さった自然、地球のすべてです。中学生だと理解して欲しいのですが、今、環境のことが問題となっています。自然が破壊されていっています。自然を守ること、管理することも、神さまは私たち人間に求めておられます。

このようなことは、神さまを信じていない人たちは語りません。神さまを知らない人たちは、考えません。だからこそ、神さまを信じて教会に来ている私たちが、自然を守らなければならないこと、すべての生き物が守られるようにということを、語って行かなければなりません。

神さまが、すべてを創られ、人間を創られた時、みんなが神さまの語られることを聞き、従いました。だからこそ、神さまは、「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」とお語りになりました。

お祈りしましょう。

神さま、神さまがすべてを創られ、そして最後に、私たち人間を特別な者としてお創りくださり、ありがとうございます。私たちも、神さまが創られたすべてのものに感謝して、そして大切にしていけるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

神さまは、6日の間に、すべてのものを創られ、最後に私たち人間を創って下さいました。人は神にかたどり、神に似せて創られたのであり、神さまは私たちを愛して下さいました。大好きです。

そして神さまが6日目に、私たち人間を創られた時、すべてが完成して、それはとても素晴らしいものでした。このようにして天地万物が完成して、神さまは7日目に休まれました。

神さまが休むと言うとき、二つの理由があります。

一つは仕事を離れることであり、私たちであれば、体を休める・休息することとなります。神さまは、七日に一日、体を休められたのであり、神さまがお造りになった人間も、七日に一日、つまり一週間に一日は休むように、体が創られています。子どもにしても大人にしても、休みなしに働くことは、良くないことです。イエスさまの時代には、「何が何でも一日を休まなければならない」を叫ばれていましたが、守れないことを批判してはなりません。一週間に一日、体を休めることは、大切なことであることを、神さまが7日目に休まれたことにより、私たちは知らなければなりません。

そして神さまが7日目に休まれたもう一つの理由は、神さまはこの日を祝福して、聖別された、つまり礼拝を持たれ、神さまとの交わりを持たれたのです。旧約の時代は、週の7日目、いまの土曜日が神さまを礼拝する日でしたが、イエスさまが十字架で亡くなられてから三日目に甦られました。それが週の第一日目、つまり日曜日であり、この時以来、キリスト教会では、日曜日を聖別して、神さまを礼拝する日となっています。だからこそ、私たちは皆、日曜日毎に、神さまを礼拝し、神さまと交わり、神さまを信じる人たちとの交わりのために、私たちは教会に集まり、神さまを礼拝します。

だからこそ、私たちが神さまを信じる時、日曜日には勉強も仕事も休んで体を休めること、神さまを礼拝すること、この両方のことを、神さまは私たちに求めておられるのだ、ということを理解して頂ければと思います。

お祈りします。

神さまは、神さまがすべてを創られた時、とても素晴らしいものであり、ありがとうございます。そして神さまは7日目に休まれました。だからこそ、私たちも、日曜日毎に休んで、神さまとの交わりのために教会に来ることができるようになってください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

主なる神さまは、天地万物を創造し、そして最後に私たち人間をお造りになりました。神さまは、私たち人間が、特別であり、愛して下さいました。大好きでした。

だからこそ、神さまは、人間を信頼して、大切な約束をして下さいました。それが、前に記されています。「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

最初の人、アダムさんとエバさんは、神さまとの約束をすべて守ることができました。神さまはそのことを知っておられるから、約束を結んで下さったのです。約束を結ぶのは、大好きだから、信頼しているからできるのです。それは、神さまが、人間の他には、動物にも鳥にも魚にも、約束を果たすように求めなかったことでも明かです。神さまにとって、人間は、特別な存在、大好きだったのです。

しかし、アダムさんとエバさんは、この後、神さまとの約束を破り、その結果として、人間は死ぬ者となりました。だから私たちもいつかは肉の死となります。

「神さまは、人間が守ることができないことを知っていながら、このような約束を結ばれたのは意地悪だ」という人もいます。しかし、神さまは人間を信頼していたのです。そして人間は、神さまとの約束を守ることができたのです。園には、多くの食べ物がありました。善悪の知識の木の実が特別なわけではありません。

だから、神さまが、アダムさんとエバさんに結んで下さった最初の約束は、神さまがアダムさん、エバさん、そして私たちのことを、神さまが大好きだったから、愛しておられるからなんだということを、今日は覚えていただければと思います。

(お祈りします)

神さま、神さまがアダムさんとエバさん、そして私たちを特別に愛して下さい、大好きだからこそ、約束を結んで下さり、ありがとうございます。

今、私たちは、神さまを信じ、イエス・キリストによって救いが与えられていることを信じることによって、救いが約束されています。どうか、みんなが、神さまとの約束を守ることができるように、してください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

神さまが、すべてを創られたことを学んでいます。この時に、私たち人間、そしてここにいるみんなのことが、神さまは大好きだからこそ、人間を特別な存在としてつくって下さいました。それが神さまのかたち、神に似せてつくられることです。私たちが神さまを礼拝するのは、神さまの代わりに、私たちが加えていただいているのであり、神さまの恵みと祝福が、礼拝により、私たちに示されています。

しかし、神さまは、私たち人間が、神さまとの交わりがあれば、一人で生きることが出来るかといえば、できないことを知っておられました。だからこそ、神さまは、最初の人を造られた時、助ける者をお与え下さろうとしました。最初の人、アダムさんは、いろいろな動物、鳥、獣が神さまから与えられましたが、共に助け合って生きることができる人はいませんでした。

この時神さまは、**2:21~22 主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られます。**

この時アダムは語ります。

「ついに、これこそ

わたしの骨の骨

わたしの肉の肉。

これをこそ、女（イシヤ）と呼ぼう

まさに、男（イシュ）から取られたものだから。」

長い間、「男の方が女より先に生まれたから偉いのだ」と言われてきました。しかし、神さまが最初に男を創られ、後から女を創られたのは、男の方が偉いからではありません。男の人と、女の人とは、違います。男の人の方が優れている所もあれば、女の人だから優れている所もあります。男の人ばかりだと困ってしまうこともあります。それぞれが助け合って、生きることが出来るのですよ、だからこそ、結婚することも大切なのですよ、と神さまは私たちに教えています。

お祈りしましょう。

神さま、神さまは私たち人間が、互いに助け合って生きるために、男の人と女の人を創られたことを学びました。それぞれが助け合い、大切に思うことができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

神さまは、すべてを創られ、最後に人間を造られました。神さまは、人間のことが大好きだから、特別な存在として、神のかたち、神に似せて創られ、神との交わりを行うことができました。それが神さまを礼拝するということでした。

この時、神さまは、人間を信頼しているからこそ、一つの約束を結ばれました。

それが、2:16-17「**園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう**」でした。男であるアダムさんと女であるエバさんは、いろんな食べ物を食べる事ができて、楽しむことができました。

しかし、ここに現れたのがへびです。ここから少し聖書を読みますね。

3:1~6 **蛇は女に言った。**

「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」

女は蛇に答えた。

「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。

でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」

蛇は女に言った。

「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、

神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」

女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。

蛇が一番悪い、女が悪い、何も言わずに食べた男も悪い、と誰が一番悪いのか、ということが語られることがあります。しかし、忘れてはならないことは、男も女も食べてはならない木の実を食べ、死ぬことになったということです。アダムとエバから生まれてくるすべての人が、罪を犯し、死ぬ者となりました。神さまとの交わりがなくなりました。

それでも神さまはみんなのこと、そして私たちのことが大好きで、キリストさまの十字架によって救って下さり、神の子どもとしてくださいました。

神さまに感謝して、生きたいですね。

お祈りします。

イエスさま、アダムとエバが罪を犯したにも関わらず、キリストにより私たちを救って下さり、天国に迎え入れて下さいますことに感謝します。

救いの喜びをもって、生きることができるようになってください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

神さまは、天地万物を創られ、そして最後に人間を造って下さいました。人間は、神さまにとっても特別な存在であり、神のかたち、神に似せて造られました。そして神さまとの交わりに生きる、つまり神さまを礼拝して生きるものとなりました。だから神さまは、人間、そしてみんなのことが大好きです。

神さまは、人間を信頼しているからこそ、一つの約束を結ばれました。2:16-17「**園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう**」でした。男であるアダムさんと女であるエバさんは、いろんな食べ物を食べる事ができて、楽しむことができました。

しかし、最初の人であったアダムさんとエバさんは、蛇に騙されて罪を犯してしまいました。3:1~6 **蛇は女に言った。**

「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」

「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、

神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」

神さまは人のところに来られますが、人は隠れてしまいます。悪いことを知っていたからです。しかし、神さまからは隠れることができません。神さまは見ている、と思う所でも、神さまはすべてをご存じです。私たちは、すべての行い、すべての言葉、すべて心の中に思っていることを、隠すことができません。

3:14 **主なる神は、蛇に向かって言われた。**

「このようなことをしたお前は

あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で

呪われるものとなった。

お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。

3:15 **お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に**

わたしは敵意を置く。

彼はお前の頭を砕き

お前は彼のかかとを砕く。」

神さまはイエスさまを約束され、イエスさまによって蛇の頭を砕き、裁くことを約束して下さいました。そして、罪を犯したアダムとエバの罪を赦し、神の子としての歩みが続けることができるようにして下さいました。

神さまは、罪を犯しても、アダムさんとエバさんが大好きだったように、みんなのことも大好きです。だからこそ、教会にきて、神さまとの交わりを大切にさせていただきたいと思えます。

お祈りします。

神さまは、神さまが創造された人間のことが大好きです。だからこそ、みんなのことも大好きです。

だからこそ、神さまは、最初の人であるアダムさんとエバさんが食べてはならないと言われていた木の実を食べた時も、罪を赦して下さいました。神さまの恵みによって生きる時に、神さまからの祝福が約束されました。

そしてその後、アダムさんとエバさんには子どもが与えられました。お兄さんがカインさんで、弟がアベルさんの兄弟です。カインさんは土を耕す農家で、アベルさんは羊飼いとなりました。アダムさんとエバさんが神さまの恵みに生きたように、カインさんもアベルさんも、神さまを礼拝しています。カインさんは土の実りを献げ物として持って来ます。そしてアベルさんは、羊の群れの中から一番良いもの、最初の子どもを持ってきました。

この時、神さまは、アベルさんの羊の献げ物に目を留められ、喜ばれますが、カインさんの献げ物を喜ばれることはありませんでした。アベルさんの献げ物の方が、カインさんの献げ物よりも素晴らしかったからです。

そうすると、兄のカインさんは怒ってしまいます。「なんで神さまは、私の献げ物を認めてくれないのか？」と。

罪とは恐ろしいものです。自分の献げ物は認められず、弟の献げ物が認められた時、兄のカインは、弟が嫌になります。そして弟を呼び出し、ついには弟アベルを殺してしまいます。

神さまは、すべてを見ておられます。だから、神さまが「**お前の弟アベルは、どこにいるのか**」と問われた時、隠すことはできません。

そしてカインは神さまに、自分の罪を認めなければなりません。カインは神さまに語ります。「**わたしの罪は重すぎて負いきれません。今日、あなたがわたしをこの土地から追放なさり、わたしが御顔から隠されて、地上を彷徨い、さすらう者となってしまうば、わたしに出会う者はだれであれ、わたしを殺すでしょう**」。

この時神さまはカインに語られます。「**いや、それゆえカインを殺す者は、だれであれ七倍の復讐を受けるであろう**」と。つまり神さまはカインを赦して下さい、守って下さいました。罪を犯すことは、悪いことです。本当ならば、神さまによって裁かれます。しかし、それでも神さまは私たちを愛して下さい、罪を認めれば、赦して下さいます。

お祈りします。

神さま、私たちは時にけんかをしたり、悪いことをしたりしてしまいます。その時には、「ご免なさい」と言って、謝ることができるようにして下さい。そして神さまの赦しと神さまの恵みをお与え下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

今、コロナ・ウィルスのために病気になることが心配され、みんなも学校が休みとなっています。こわさもあります。大人の人たちでも、どうしたら良いのか分かりません。自分は大丈夫だ、解決できると思っていることこそが、問題です。だからこそ、今、私たちは神さまの御前で、「助けて下さい」と、祈らなければなりません。

さて、創世記を学んでいます。神さまはみんなのこと、そして私たち人間のことが大好きです。だからこそ、特別な愛をもって作って下さいました。だからこそ、私たちは神さまを礼拝し、神さまとの交わりが与えられています。

しかし罪を犯した人間は、神さまから離れてしまいました。人を殺すことも起こります。それかれ時が過ぎていきますが、人間は賢くなるのではなく、いつまでたっても神さまの前で罪を繰り返します。

聖書にはこのように書かれています。創世6:5~7 **主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。主は言われた。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」**

しかし神さまは、それでも人間を愛しておられました。だからこそ、人間の中からノアだけを救うことを約束して下さいました。神さまはノアさんに対して、箱舟を作るように命じます。丘の上、海や川の無いところに、135m×22m×13mという大きな船です。

ノアさんが箱舟を作っていると、まわりの人たちは馬鹿にします。それでもノアさんと三人の息子たちは箱舟を作り続けます。

そして箱舟は完成します。ノアさんと家族は、すべての動物、そして食べるものを箱舟に入れ、そして箱舟の扉を閉じます。ノアさんと家族以外は、だれもノアさんと一緒に箱舟に乗り込むことはありませんでした。この時、神さまは、天から大雨を降させます。すべてのものが、水に呑み込まれていきます。箱舟に入ったノアさんと家族、動物以外、すべてが死んでいきました。

教会に来ること、神さまを信じていることが恥ずかしい時もあるかも知れません。友だちに馬鹿にされることがあるかもしれません。しかし、神さまを信じ、教会に来ているみんなのことを、神さまは大好きです。ノアさんのように、救って下さいます。

だからこそ、神さまを信じて、いつでも教会に来て頂きたいと想います。

お祈りします。神さま、ノアさんのように、神さまを信じ、神さまが語られる御言葉にいつでも聞き従うことができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

創世記を学んでいます。神さまはみんなのこと、そして私たち人間のことが大好きです。だからこそ、特別な愛をもって作って下さいました。だからこそ、私たちは神さまを礼拝し、神さまとの交わりが与えられています。

しかし罪を犯した人間は、神さまから離れてしまいました。人を殺すことも起こります。それかかれ時が過ぎていきますが、人間は賢くなるのではなく、いつまでたっても神さまの前で罪を繰り返します。

そのため、神さまはすべてを滅ぼそうとしましたが、しかし神さまは人間のことが好きでした。だからすべてを滅ぼすことはしませんでした。ノアさんとその家族だけは救って下さいました。ノアさんたちは、神さまの語られたとおりに、箱舟を作り、それに乗りました。そのため、その後に大雨のため、洪水が発生してすべての人たちが滅ぼされていきましたが、ノアさんとノアさんの家族だけが、助かりました。

洪水がひいた時、ノアさんとその家族が箱舟から出て来た時、神さまはノアさんと約束を結んで下さいました。

「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる。」(9:9)

「わたしがあなたたちと契約を立てたならば、二度と洪水によって肉なるものがごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない。」(9:11)

「わたしは雲の中にわたしの虹を置く。これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。」(9:13)

神さまがノアさんと結んで下さった約束、このことを契約と言いますが、それは、もう二度と洪水によってすべての人を滅ぼさない、ということでした。神さまは私たちを救って下さいました。私たちも罪を犯しているため、本当ならば滅ぼされても仕方ありません。しかし、神さまは、私たちをイエスさまが十字架にお架かりになり、私たちの代わりに、罪を償って下さることにより、私たちを救って下さいました。

そして、今なお、神さまがすべてを滅ぼさないのは、神さまを信じて、神さまによって救われる人がまだいるからです。

そして、雨の後に、虹を見たら、神さまが私たちのことだ大好きなんだ、救って下さっていることを思い起こしていただきたいと思います。

コロナウィルスは恐ろしいです。しかし、神さまは、恐ろしいと思って、みんなが神さまを信じて、祈ることを喜んで下さいます。そして、神さまはみんなを守って下さいます。

お祈りしましょう。神さま、神さまはノアさんを救って下さったように、みんなのことが大好きです。だからこそ、みんなも神さまを信じることができるようになってください。

そして、コロナウィルスからも守って下さい。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

神さまは、罪に満ちた世界を洪水によって滅ぼされました。その中にあって、ノアさんとその子どもたち、全員で8人だけが助け出されました。神さまは、神さまが造られた人間が大好きで、みんなが滅んで欲しくないと思い、ノアさんの家族だけは助けて下さいました。

その後、また人が増えていきました。ノアさんの時代にあった洪水のことを忘れた人たちは、神さまを忘れて、罪を繰り返すようになります。

神さまを忘れた人間は、次に何を行ったかと言えば、天にまで届く塔を建てて、有名になろうとします。それがバベルの塔です。そして「自分には何でもできるんだ」、「自分たちはすごい人間だ」と、多くの人たちから認められたいと思うようになります。

しかし、神さまからすれば、それは、人間が神に成り代わり、神の如くに生きようとするように見えます。世界を作られた神さまからすれば、人間が一生懸命に作った塔であっても、ミニチュアのようなものです。神さまは、世界を自由に作り変えることができます。

だから、人間が互いに話し合っていて、神になろうとしているため、それができないように、互いに言葉が聞けないようにして、言葉を混乱させられました。この時以来、世界は、異なった言葉を話す人たちがいて、互いに話すことが通じなくなりました。

私たちは、自分たちで何でもできるんだ、自分たちはすごいのだ、とってはなりません。今、日本において、そして世界において起こっている新型コロナ・ウィルスによる病気が、神さまが、私たちを混乱させるために、行われているように思っています。初めは中国、そして今はイタリア、スペイン、アメリカで特に混乱しています。混乱が収まり、病気にかかっている人たちが癒やされるように祈りたいと思います。しかし同時に、すべての人たちが、神さまの御前に生きていること、神さまに委ねることをしなければなりません。私たちが神になること、神を忘れることを、神さまは悲しんでおられます。

お祈りします。

神さま、人は神を忘れ、自分が神のようになろうとします。自分で何でもできると誇りたくなります。しかし、私たちは、神さまの御前では、何もできません。だからこそ、すべての人が、神さまの御前に集まることができるようにしてください。神さまに祈ることができるようにしてください。

そして、神さま、どうか、世界の人たちを助けて下さい。問題を解決して下さい。このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

新しい年度を迎え、進学、進級されました。でも、今年は、学校がしばらく休みですね。教会でも休まれている方が増えています。目に見えないウィルスはおそろしいです。だからこそ、マスクをして、風通し良くしなければなりません。神さまを信じているからといって、肺炎にならないわけではありません。だからこそ気をつけなければなりません。

でも、「自分は言われたことを守っているから、大丈夫だ」と思ってはなりません。こういうことを「過信」と言います。「信じ込むこと」です。それでも、肺炎にかかる時は、かかります。そうすれば、私自身が、他人に肺炎をうつしてしまうことになるかもしれません。そのためにも、注意しなければなりません。

こうした時、自分の力では不十分です。だからこそ、神さまに祈ることが求められています。神さまは、私たちが祈ることを喜んで下さいます。

そして神さまに祈り求める私たちに、神さまは声をかけて下さいます。

今日は、アブラハムさんについて学びます。神さまはアブラハムさんにお語りになります(12:1～3)。

「あなたは生まれ故郷

父の家を離れて

わたしが示す地に行きなさい。

わたしはあなたを大いなる国民にし

あなたを祝福し、あなたの名を高める

祝福の源となるように。

あなたを祝福する人をわたしは祝福し

あなたを呪う者をわたしは呪う。

地上の氏族はすべて

あなたによって祝福に入る。」

神さまが突然語られたから、アブラハムさんも驚いたかも知れません。神さまはアブラハムさんが生まれ育った町を離れ、行ったことのない遠くの町へ行くように命じられます。アブラハムさんは、この時、もう75歳でした。

でも、アブラハムさんは、イヤだなと思うことなく、神さまが命じられた通りに従いました。アブラハムさんは、神さまを信じて、神さまの命じられたことに従ったため、多くの恵みが与えられました。

みんなも、「これからどうなるのだろう、心配だな」と思っているかと思います。しかし、神さまは、みんなが行く道を備えて下さいます。神さまを信じて、神さまにお祈りして頂きたいと想います。

(お祈りします) 神さま、アブラハムさんが神さまを信じて、神さまの言葉に従ったように、私たちも神さまを信じることができるようになって下さい。神さまに祈ることができるようになって下さい。そして、私たちの健康をお守り下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

神さまは、教会に集うみんなのこと、そして今日は教会に来ることが出来ず、家にいるみんなのことが大好きです。今日はイースターですから、本当ならばみんなと一緒に祝いしたかったのですが、今日はそれができません。しばらく、教会に来て一緒に礼拝することができないのは、非常に寂しいですね。

今日はアブラハムさんのお話をします。主なる神さまは、アブラハムさんに語られました。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す血に生きなさい。

わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める」。

不安もあったでしょう。心配でもあったでしょう。しかしアブラハムさんは、神さまを信じていましたから、神さまの言葉を信じて、神さまが示すままに、まったく行ったことのない土地に行きました。

この後、主なる神さまは、改めてアブラハムさんに語られました。

「恐れるな、アブラムよ。

わたしはあなたの盾である。

あなたの受ける報いは非常に大きいであろう」。

つまり、神さまがアブラハムさんに大きな恵み、大いなる喜びをお与え下さるとお語り下さったのです。

アブラハムさんは、神さまが何を下さるのだろうかと思いました。アブラハムさんには子どももなく、家族を大きくして祝福されることなど、考えられなかったからです。

しかし神さまは続けてアブラハムさんに語られます。

「あなたから生まれる者が跡を継ぐ」。

この言葉にアブラハムさんはびっくりします。アブラハムさんが最初に神さまから声をかけられた時は、すでに75歳のおじいさんになっていたからです。

しかし神さまはさらにアブラハムさんに語られます。

「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。

「あなたの子孫はこのようになる」。

アブラハムさんにとっては、びっくりすることばかりでした。しかし、アブラハムさんは神さまを信じており、神さまが語られたことも信じます。このことを神さまは、非常に喜んで下さいました。

今、みんなも、不安がいっぱいかと思います。しかしみんなが神さまを信じて、神さまに祈る時、神さまは答えをお与え下さいます。時間がかかるかもしれませんが。無理かもの思ってしまうこともあるかもしれませんが。しかし、神さまは私たちに答えて下さいます。アブラハムさんが神さまを信じたように、みんなも、神さまを信じて、祈り続けていたいただきたいと思います。 お祈りします。

今週も、教会には子どもたちはだれもおらず、奉仕をして下さる数人の人たちだけがこの場に集っています。非常にさびしいですね。しばらくみんなの顔を見ることができません。しかし、みんなが笑顔で、また教会に来る日を待っています。

さて、先週からアブラハムさんの話しを行っています。神さまはアブラハムさんを祝福し、喜ばれます。アブラハムさんは神さまを信じていましたから、神さまが命じられたとおり、行ったことのない新しい場所に移りました。

そして神さまはアブラハムさんに約束されました。

「あなたから生まれる者が跡を継ぐ」

「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい」。

「あなたの子孫はこのようになる」（創世記15:4-5）。

さらに神さまはアブラハムさんに語られます。

「神はアブラハムに言われた。「あなたの妻サライは、名前をサライではなく、サラと呼びなさい。わたしは彼女を祝福し、彼女によってあなたに男の子を与えよう。わたしは彼女を祝福し、諸国民の母とする。諸民族の王となる者たちが彼女から出る。」（17:15-16）

アブラハムさんは神さまの言葉を聞きました。しかし、笑って、ひそかに言った。「百歳の男に子供が生まれるだろうか。九十歳のサラに子供が産めるだろうか。」（17:17）

アブラハムさんは神さまを信じていました。しかし、神さまが語られることは、普通に考えていれば不可能なことであり、理解できません。だから笑ってしまうのです。冗談だと思ってしまうのです。しかし、神さまは約束を果たして下さいます。

そして神さまはさらに語ります。

「いや、あなたの妻サラがあなたとの間に男の子を産む。その子をイサク（彼は笑う）と名付けなさい。わたしは彼と契約を立て、彼の子孫のために永遠の契約とする。」（17:19）

神さまが結んで下さる約束、ここでは契約と語られていますが、契約は永遠であると語られます。神さまが約束して下さいたことは、必ず実行されます。

だからこそ、私たちも神さまを信じなければなりません。みんなも今、苦しいでしょう。世界中で病気で苦しんでいる人たちがいます。お医者さんや看護師さんも大変です。神さまが助けて下さり、力を与えて下さらなければ、収まりません。神さまは、アブラハムさんが無理だと思ったことを、実現して下さいます。そして今、世界中の人たちを助けて下さいます。だからこそ、神さまを信じて、祈り続けて下さい。

お祈りします。神さま、今、世界中で苦しんでいる人たちがいます。どうか、神さまが助けて下さい。力を貸して下さい。私たちを守って下さい。またみんなと一緒に教会に来て、神さまを礼拝することができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

神さまは、アブラハムさんに約束されました。

「あなたから生まれる者が跡を継ぐ」

「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい」。

「あなたの子孫はこのようになる」（創世記15:4-5）。

アブラハムさんは神さまの言葉を聞きました。しかし、笑って、ひそかに言った。「百歳の男に子供が生まれるだろうか。九十歳のサラに子供が産めるだろうか。」（17:17）

しかし、神さまが語られる約束は実現されます。神さまは、神さまがつかわされた3人を通じて、語られます。彼らの一人が言った。「わたしは来年の今ごろ、必ずここにまた来ますが、そのころには、あなたの妻のサラに男の子が生まれているでしょう。」

サラは、すぐ後ろの天幕の入り口で聞いていた。アブラハムもサラも多くの日を重ねて老人になっており、しかもサラは月のものがとうになくなっていった。サラはひそかに笑った。自分は年をとり、もはや楽しみがあるはずもなし、主人も年老いているのに、と思ったのである。（18:10-12）

この時に神さまはさらに語られます。

主はアブラハムに言われた。「なぜサラは笑ったのか。なぜ年をとった自分に子供が生まれるはずがないと思ったのだ。主に不可能なことがあろうか。来年の今ごろ、わたしはここに戻ってくる。そのころ、サラには必ず男の子が生まれている。」（18:13-14）

神さまは、大切なこと、そしてこんなことあり得ない、と思うようなことを行われる時、何度も何度も語られ、確認を求められます。

そして神さまは、100歳のアブラハムさん、90歳のサラさんに子どもをお与え下さいました。それが笑い（イサク）さんです。

私たちは今、コロナ・ウィルスのために、世界中の人たちが困っています。みんなも学校にも行けません。教会にも来ることができません。大人の人たちでも、苦しんでいます。悩んでいます。難しい問題だからこそ、私たちは自分で何かをしようとするのではなく、神さまに委ねましょう。お祈りしましょう。アブラハムさんやサラさんが、不可能だと思うようなことを、神さまは行い、子どもを授けて下さいました。

お祈りしましょう。

神さま、神さまは私たちが無理だと思うことでも、行う力を持っておられる方です。今、世界中の人たちが苦しんでいます。悩んでいます。神さま、どうか、助けて下さい。力をお与え下さい。そして、学校に行ったり、教会に来たりすることができるように、してください。このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

みんなが教会に来ることが出来なくなって1ヶ月、2ヶ月が経ちます。お友だちと会えないことに寂しく思われているのではないのでしょうか。先生も、いつもみんなと一緒に撮った写真を見ながら、早く会いたいなと思っています。今日も、みんなと直接会うことはできませんが、神さまは私たちに、聖書の言葉をとおしてお語り下さいます。

100歳になるアブラハムさんと90歳のサラさんから子どもが生まれることを神さまは約束して下さいましたが、それが現実のものとなります。

生まれてきた子どもは、「笑う」という意味の「イサク」と名付けられました。神さまの約束に対して、サラさんが笑ったからです。

イサクさんは成長し、青年になります。この時、神さまは、アブラハムさんに命令をされます。「**あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。**」(22:2)

焼き尽くす献げ物とは、生け贄であり、イサクさんの命は奪われます。

アブラハムさんは「エー！」と思ったと思います。神さまは、アブラハムさんから生まれてくるイサクこそが、跡継ぎであり、神さまの祝福がイサクから生まれる子どもたちに受け継がれることを約束されていたからです。イサクさんを、生け贄としてささげると、跡継ぎがいなくなります。アブラハムさんは「神さまは何を考えておられるのだろうか」と思ったに違いありません。

それでもアブラハムさんは、神さまの言葉を信じており、神さまが語られたとおり、イサクを生け贄にするために、イサクと共に山に登ります。

イサクさんは父アブラハムに尋ねます。「火と薪はここにありますが、焼き尽くす献げ物にする小羊はどこにいますか。」アブラハムは答えた。「わたしの子よ、焼き尽くす献げ物の小羊はきっと神が備えてくださる。」二人は一緒に歩いて行った(22:7-8)。

そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、22:12 御使いは言った。「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった」(22:11-12)。

神さまは、このように、こんなこと無理だというようなことでも、解決して下さいます。みんなは今、これからどうなるのだろうかと思っています。しかし、神さまはすべてを解決する力を持っておられます。アブラハムさんが神さまを信じて、神さまが命じられたことを行ったように、みんなも神さまを信じて、お祈りしていただきたいと思えます。

お祈りしましょう。神さま、今、世界中の人たちが苦しんでいます。助けて下さい。私たちが学校や幼稚園・保育園に行くことができるようにして下さい。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

神さまは、100歳のアブラハムさんと90歳のサラさんに約束の子どもイサクさんをお与え下さいました。そして神さまはアブラハムさんにイサクさんをいけにえに献げるように求めたときも、アブラハムさんは神さまの言葉に従いました。神さまは、アブラハムさんの信仰を喜び、イサクの代わりにいけにえの小羊を用意して下さいました。

イサクさんも結婚して、そして双子の子どもが与えられました。この時、神さまは、イサクさんの妻リベカさんに語ります。「二つの国民があなたの胎内に宿っている。…兄が弟に仕えるようになる」(創世記25:23)。そして兄がエサウ、弟はヤコブと名付けられました(同25:25-26)。二人の子供は成長して、エサウは巧みな狩人で野の人となったが、ヤコブは穏やかな人で天幕の周りで働くのを常としました(同25:27)。そしてイサクさんは、神さまの祝福を受け継ぐエサウさんを愛していました。

しかし、ある日のこと、弟ヤコブさんが食事を作っていると、狩人であった兄エサウ三が疲れ切って帰って来ました。そしてヤコブさんをお願いします。「その食べ物を食べさせて欲しい。わたしは疲れ切っているんだ」と。

この時、ヤコブさんはすこし悪知恵が働き、「まず、お兄さんの長子の権利を譲ってください」と頼むと、エサウさんも「ああ、もう死にそうだ。長子の権利などどうでもよい」と答え、大切な長子の権利を弟ヤコブに譲ってしまいました(同25:29-33)。

さらに時間が経ち、お父さんのイサクさんも年をとり、ほとんど目も見えません。イサクさんは、神の祝福を受け継ぐ長子の権利をエサウに譲るために、エサウさんに、野の獣を捕ってきて、料理を食べさせて欲しいと願います。

エサウさんは早速、狩りに行きます。しかしその間に、弟ヤコブは、自分が兄エサウだとだまして、イサクさんに料理を食べさせ、イサクさんは弟ヤコブさんに長子の権利を受け継ぎました。兄エサウさんが狩りを終え帰って来た時には、もう後の祭りです。

ヤコブさんは、ずる賢かったのです。しかし一番の問題は、エサウさんが神さまから与えられる長子の権利、神さまからの祝福を軽んじたことです。

なぜエサウさんではなく、ヤコブさんが祝福されたのか、不思議です。なぜなんだろうと思ってしまいます。しかし神さまは、私たちが神さまからの祝福を求めること、恵みに感謝することを、喜んで下さいます。

今、みんな、なぜ学校や幼稚園・保育園に行くことが出来ないのだろうかと思っていることかと思えます。神さまは、こうした時でも、みんなが神さまを信じ、神さまにお祈りすることを、喜んで下さいます。

お祈りしましょう。神さまは、エサウさんではなく、ヤコブさんに祝福をお与え下さいました。私たちはなぜだろうかと思ってしまいます。しかし、神さまが行われることはすべてが正しいことを信じています。ヤコブさんが神さまからの祝福を求めたように、私たちも、神さまからの恵みを求め、祈り続けることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

神さまはアブラハムさんを祝福して下さいました。そのため100歳になったアブラハムさんにイサクさんが生まれました。そしてイサクさんには双子の男の子エサウとヤコブが生まれました。イサクさんは兄エサウを愛していましたが、神さまは兄エサウではなく、弟ヤコブに祝福を受け継がせました。ヤコブの方がずる賢いようであり、神さまの恵みは、私たちにとって非常に不思議に見えます。

そしてヤコブさんも結婚します。ヤコブさんは、ラケルさんを愛していましたが、ラケルさんと結婚したいと思っていました。しかし、ラケルさんのお父さんラバンさんは、ラケルの姉レアと結婚を望みました。ヤコブさんは、ラバンさんの所で働かせてもらっていることもあり、ラバンさんの言うことに逆らえません。そのため、ヤコブさんは、姉のレアさんと結婚し、妹のラケルさんとも結婚することとなりました。

そうすると、姉のレアさんも、妹のラケルさんも、ヤコブさんの子どもが欲しいと思います。最初にお姉さんのレアさんから子どもが生まれます。①ルベン、②シメオン、③レビ、④ユダ。

しかしラケルさんには子どもができません。そのためラケルさんは女奴隷のビルハによって子どもを得ようとします。⑤ダン、⑥ナフタリ。

次にレアさんも女奴隷ジルバから子どもを得ようとします。⑦ガド、⑧アシェル。

そしてさらにレアさんから子どもが生まれます。⑨イサカル、⑩ゼブルン。

最後にラケルさんからも子どもが生まれます。⑪ヨセフ。そして最後にラケルさんから⑫ベニヤミンが生まれ、ラケルさんは息を引き取ります。

レアさんとラケルさん、それぞれの意地によって子どもが生まれていきました。しかし、神さまは、ヤコブさんから生まれた12人の子どもたちを祝福して下さいます。

アブラハムさんに神さまが声をかけて下さった時、神さまは、「わたしはあなたを大いなる国民にす、あなたを祝福する」(創12:2)とお語り下さり、「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」「あなたの子孫はこのようになる」(同15:5)とお語り下さいました。

神さまの約束は、ヤコブから生まれる12人の子どもたちによって成し遂げられていきます。そしてヤコブは、この後イスラエルと呼ばれるようになり、イスラエルの12部族となっていくます。

神さまが行われることは、私たちには分からないこともあります。しかし、神さまは、約束をお守り下さるお方です。イエスさまは「信じる者は救われる」とお語り下さいました。神さまを信じて、神さまがお与え下さる救いを信じて、祈りましょう。

お祈りします。 神さま、神さまはアブラハムさんへの約束を守るために、ヤコブさんに12人の息子をお与え下さり、イスラエルの12部族を形成するように準備して下さいました。私たちも神さまの救いの約束を信じるができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

新型コロナ・ウィルスのために、学校や幼稚園に行けなくなり3ヶ月、教会に行けなくなり2ヶ月が経とうとしています。まだ、完全ではありませんが、6月1日から学校が始まるのでしょうか？ 教会も、来週5月31日から再開されます。

この間、本当に寂しかったですね。しかし、学校や教会が始まって、今までのように自由ではありません。人との間に、距離をとらなければなりません。今まで与えられていた自由が、神さまから与えられた恵みであったことを、理解して頂きたいと思います。

さて、アブラハムさんの子イサクさんの子ヤコブさんの話しをしています。先週は、ヤコブさんから12人の息子たちが生まれ、12人がイスラエル民族となることをお話ししました。

さて、ヤコブさんが家族と共にヤボクという所に来た時に、誰か分からないのですが、ヤコブさんと格闘します。突然のことで、ヤコブさんも驚いたかと思いますが、ヤコブさんの方が強かったため、襲ってきた人は、ヤコブさんのももの関節を打ち、ヤコブさんのももの関節が外れます。

でもヤコブさんはこの時分かりました。戦っているのが神さまだと。神さまが戦いを挑んでくるとは、なぜなのかと忘れてしまいます。

この時、この人が「もう去らせてくれ。夜が明けてしまうから」と語りますが、ヤコブさんは神さまに「いいえ、祝福してくださるまでは離しません」と語ります。

この時、神さまは「お前の名は何というのか」と尋ねてきたため「ヤコブです」と答えます。

この時、神さまは語られます。「お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる。お前は神と人と戦って勝ったからだ」。そしてヤコブさんはその場で神さまから祝福を受けました。

神さまはアブラハムさんを祝福して下さり、星のように子孫を増やすことを約束して下さいましたが、イサクの子ヤコブに祝福が受け継がれ、ヤコブから生まれた12人の男の子によって、イスラエルとなり、神さまの祝福は満たされていきました。

日曜日になっても教会に行くことができなくなり、神さまは本当におられるのだろうか、恵みをお与え下さるのだろうかと考えてしまいます。しかしヤコブさんが神さまと向き合って戦ったように、みんなが今神さまと向き合い、神さまに祈ることを喜んで下さいます。

お祈りしましょう

神さま、苦しんでいる人を助けて下さい。私たちが病気にかからないように守って下さい。来週から教会で礼拝が行われますが、みんなが集い、一緒に神さまを礼拝することができるようにして下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

アブラハムさんの子、イサクさんの子、ヤコブさんには12人の男の子がいました。彼らがイスラエルの12部族となっていくます。ここにアブラハムさんに示された神の祝福が実現することとなります。

今日は、この12人の兄弟の中、ヨセフさんについて学びます。父ヤコブさんにとって、ヨセフ、そして一番下の弟ベニヤミンは、特別、愛していました。一番好きだったラケルさんから生まれたからです。

しかし、このヨセフさんは、お兄さんたちのことをお父さん（ヤコブさん）に告げ口を行います。お兄さんたちにとっては、ヤコブは嫌な弟でした。

それなのに、父のヤコブさんは、ヨセフさんにだけ、すばらしい晴れ着を造ります。お兄さんたちは、そのことも嫌で、弟のヨセフさんを憎んでいました。

ある時、ヨセフさんは、夢を見ました。夢は、神さまからの言葉が与えられ、実現すると言われていました（正夢ですね）。

ヨセフは言った。「聞いてください。わたしはこんな夢を見ました。畑でわたしたちが束を結わえていると、いきなりわたしの束が起き上がり、まっすぐに立ったのです。すると、兄さんたちの束が周りに集まって来て、わたしの束にひれ伏しました。」兄たちはヨセフに言った。「なに、お前が我々の王になるというのか。お前が我々を支配するというのか。」兄たちは夢とその言葉のために、ヨセフをますます憎んだ。

ヨセフはまた別の夢を見て、それを兄たちに話した。「わたしはまた夢を見ました。太陽と月と十一の星がわたしにひれ伏しているのです。」今度は兄たちだけでなく、父にも話した。父はヨセフを叱った。

兄弟や家族にとってヨセフは嫌な存在だったことでしょう。しかし、このヨセフさんと共に神さまがおられました。そして来週以降に学んで行くこととなりますが、ヨセフさんが兄弟から憎まれて、エジプトに売られていくことによって、イスラエルは守られています。神さまは、私たちにとって不思議なことを行われます。

今、コロナウィルスのため、世界中の人たちが困っています。しかし神さまはここにおられ、私たちを守って下さいます。神さまがヨセフさんに夢を通して、これからのことをお示し下さったように、私たちの歩む道を神さまが示して下さいように、お祈りして頂きたいと思います。

神さま、ヨセフさんは兄弟に嫌われましたが、夢を見ることにより、これから歩むべき道を神さまから聞き取ることができました。私たちも神さまを信じ、聖書を読み、祈ることにより、神さまから歩む道が示され、それに従った生きることができるようになってください。イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

アブラハムの子、イサクの子、ヤコブの子であるヨセフさんについて学んでいます。ヨセフさんは、12人兄弟の11番目、お父さんであるヤコブさんから特別に可愛がられていたため、特別扱いを受けていました。そのためお兄さんたちは、ヤコブが嫌でした。

さらに先週学んだことですが、ヨセフさんは、夢を見て、お兄さんたちに話ししました。その時、ヨセフさんが王になり、お兄さんたちを支配するような夢でした。そして2回目の夢は、お兄さんばかりか、お父さんであるヤコブさんまでが、ヨセフさんに仕えるということでした。このことにはヤコブさんも、ヨセフさんを怒りました。

しばらくしたある時、お兄さんたちは、羊の群れの世話を行っていました。この時、お父さんのヤコブさんは、ヨセフさんに「お兄さんたちはシケムで羊を飼っているはずだ。見に行ってくれ」(37:13)と言われると、ヨセフさんは、すぐに出発しました。ヨセフさんがまだ遠くにいた時、お兄さんたちはヨセフさんに気が付きました。そして、ヨセフを殺してしまおうとして、相談し始めます。

「おい、向こうから例の夢見るお方がやって来る。さあ、今だ。あれを殺して、穴の一つに投げ込もう。後は、野獣に食われたと言えよ。あれの夢がどうなるか、見てやろう。」(37:20)

37:21 一番上のお兄さん、ルベンはこれを聞いて、「命まで取るのはよそう」と語ります。

37:22 ルベンは続けて言った。「血を流してはならない。荒れ野のこの穴に投げ入れよう。手を下してはならない。」ルベンは、ヨセフを助け出して、父のもとへ帰そうとします。

37:23 ヨセフがやって来ると、兄たちはヨセフが着ていた着物、裾の長い晴れ着をはぎ取り、彼を捕らえて、穴に投げ込みます。

37:28 すぐに、ミディアン人の商人たちが通りかかり、ヨセフを穴から引き上げ、銀二十枚でイシュマエル人に売ったので、彼らはヨセフをエジプトに連れて行きます。

お兄さんたちが穴を確認しに行くと、ここにはヨセフさんがいません。お兄さんたちは、ヨセフさんが野獣に殺されたことにして、お父さんであるヤコブさんに知らせます。こんなはずではなかったのに、ということが起こっていきます。

嘘をつくこと、小さな罪を犯すことくらい、大丈夫だと思ってしまいます。しかし、自分ではどうしようもできないような大きなこととなります。悪いと思うことは、してはなりません。

そしてヨセフさんは、神さまが守って下さり、エジプトに売られていきます。神さまが行うことは、不思議です。しかし、アブラハムさんを祝福すると約束をまもるために、神さまはヨセフを守り、イスラエルの12人の兄弟たちを祝福して下さいます。

お祈りしましょう。神さま、お兄さんたちはヨセフさんが嫌いでした。だから、殺そうとしたり、奴隷として売飛ばそうとしました。しかし、ヨセフさんは神さまによって守られました。みんなが、どんなに苦しい時にも、神さまが助けて下さることを信じて、神さまに祈ることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

12人兄弟のヨセフさんは、お父さんであるヤコブさんから特別に愛され、また自分が見た夢のことで、「お兄さんたちが私に頭を下げるのだ」ということを語ったことから、兄弟たちからうらまれ、ついには奴隷として売られてしまいました。

ヨセフさんは、エジプトに連れて来られます。ヨセフさんには、いつも神さまと一緒にいて下さり、守られていました。そのため、エジプトにおいても、主人に気に入られて、財産を管理したり、大切な働きを任されました。

しかし、このようなヨセフさんに、誘惑してくる人がいました。主人の奥さんですね。悪いことを誘ってきます。ヨセフさんは、悪いことを行いません。そうしたら、主人の奥さんは、自分の誘いに乗らなかったヨセフさんをだまし、「ヨセフさんが悪いことをした」と主人に言いつけました。ヨセフさんにとっては、自分が何もしていないことで、訴えられました。「とぼっちりをうける」と言うことです。

そして、牢屋に入れられてしまいます。神さまはヨセフさんと一緒におられなかったのでしょうか？ いいえ、主なる神さまはヨセフさんと共にいてくださったから、牢屋においても、守られ、そして牢屋を管理している監守長に気に入られ、そして牢獄におけるすべてのことを任されるようになっていきました。

私たちも、悪いことにやるように誘われることがあります。一緒に悪いことを行えば、何も無くても、悪いことをしなかったために、逆に「悪いことをした」と訴えられることがあります。もしかすると、ヨセフさんのように、逮捕され、牢屋に入れられることもあるかもしれません。

しかし、神さまはすべてご存じです。そして守って下さいます。しばらくの間、苦しいこともあります。「なぜなんだ」とも思います。神さまと一緒にいて下さり、守って下さいます。

だからこそ、どんなときにも、神さまに祈り、神さまを信じていただきたいと思います。ヨセフさんも神さまと一緒にいて下さったからこそ、これから多くの祝福が約束されています。

お祈りしましょう。

神さま、悪いことをするように誘われても、神さまの子どもとして悪いことを行わないように、お守り下さい。苦しむことがあっても、守って下さい。助けて下さい。

そしてどんな時にも、神さまを信じて、神さまにお祈りすることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン

ヨセフさんは、12人兄弟でしたが、特別にお父さんのヤコブさんに愛されていました。そのため、お兄さんたちからはイヤがられていました。またヨセフさんが見た夢で、お兄さんたちやお父さんのヤコブさんまでがヨセフさんに頭を下げることを語り、さらにお兄さんたちに反感をかっていました。そのため、ヨセフさんは、お兄さんたちから殺されそうになり、結局はエジプトに奴隷として売られていきました。そして先週確認して来たことですが、ヨセフさんはエジプトにおいて牢屋に入ることとなりました。このような時にも、神さまがヨセフさんと一緒にいて下さったからこそ、ヨセフさんは守られていました。

ヨセフさんが牢屋に入っていた時、エジプト王の給仕役（執事）と料理長（コック）も王さまに罪を犯して牢屋に入ってきました。そして執事とコックは、二人が同じ日に夢を見ました。しかし彼らは夢の意味が分からずに悩んでいました。夢には意味があります。

最初に給仕役の長（執事）がヨセフに自分の見た夢を話します。「わたしが夢を見てみると、一本のぶどうの木が目の前に現れたのです。そのぶどうの木には三本のつるがありました。それがみるみるうちに芽を出したかと思うと、すぐに花が咲き、ふさふさとしたぶどうが熟しました。ファラオの杯を手にしてわたしは、そのぶどうを取って、ファラオの杯に搾り、その杯をファラオにささげました。」

→ ヨセフは答えます。「その解き明かしはこうです。三本のつるは三日です。三日たてば、ファラオがあなたの頭を上げて、元の職務に復帰させていただきます。あなたは以前、給仕役であったときのように、ファラオに杯をささげる役目をするようになります。

そして牢屋から出れば、私のことを王さまに話して下さい」と語りました。

次に料理役の長（コック）が、ヨセフが夢を語ります。「わたしも夢を見てみると、編んだ籠が三個わたしの頭の上にあります。いちばん上の籠には、料理役がファラオのために調えたいろいろな料理が入っていましたが、鳥がわたしの頭の上の籠からそれを食べているのです。」

→ ヨセフが答えます。「その解き明かしはこうです。三個の籠は三日です。三日たてば、ファラオがあなたの頭を上げて切り離し、あなたを木にかけます。そして、鳥があなたの肉をついばみます。」

3日の後、ファラオの誕生日に、給仕役（執事）は元の職に復帰することができましたが、コックは木に架けられ殺されました。

神さまは、いつもヨセフさんと一緒にいて下さいました。そのため、夢を解くこともできたのです。どんなときにも、神さまはみんなと一緒にいて下さいます。だから、神さまに祈り、神さまに助けを求めましょう。

お祈りします。神さま、ヨセフさんはどのような時にも、神さまを信じて、神さまに助けを求めたからこそ、夢を解くことができました。私たちも、いつでも神さまを信じて、神さまにお祈りすることができるようにしてください。

イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

ヨセフは兄弟たちに売られて、エジプトで奴隷となっていました。そして給仕長（執事）と料理長（コック）の夢を解き明かした後も、牢屋に入ったまま2年が経ちました。ヨセフさんには、神様が一緒にいたため守られていましたが、ヨセフさんにとっては、非常に長い月日だったと思います。

そんな時、エジプトの王であるファラオが夢を見ました。それも二つの夢です。一つ目は、「突然、つややかな、よく肥えた七頭の雌牛が川から上がって来て、葦辺で草を食べ始めた。すると、その後から、今度は醜い、やせ細った七頭の雌牛が川から上がって来て、岸辺にいる雌牛のそばに立った。そして、醜い、やせ細った雌牛が、つややかな、よく肥えた七頭の雌牛を食い尽くした。」(41:2~4)

2つ目は、「今度は、太って、よく実った七つの穂が、一本の茎から出てきた。すると、その後から、実が入っていない、東風で干からびた七つの穂が生えてきて、実の入っていない穂が、太って、実の入った七つの穂のみ込んでしまった。ファラオは、そこで目が覚めた。」(41:5~7)

ファラオは、魔術師や賢い人たちを呼び集めて、夢の説き証しを求めましたが、だれも分かりませんでした。その時、ヨセフさんが夢を解き明かし、助けた給仕役（執事）がヨセフのことを思い出します。ヨセフさんがファラオに話して下さいと約束していたにも関わらず、忘れて2年が経っていました。

するとファラオ王は早速ヨセフさんと呼び寄せて夢の説き証しを求めます。ヨセフさんは夢を解き明かします。「ファラオの夢は、どちらも同じ意味です。神がこれからなさろうとしていることを、ファラオにお告げになったのです。七頭のよく育った雌牛は七年のことです。七つのよく実った穂も七年のことです。どちらの夢も同じ意味でございます。その後から上がって来た七頭のやせた、醜い雌牛も七年のことです。また、やせて、東風で干からびた七つの穂も同じで、これらは七年の飢饉のことです。…今から七年間、エジプトの国全体に大豊作が訪れます。しかし、その後七年間、飢饉が続き、エジプトの国に豊作があったことなど、すっかり忘れられてしまうでしょう。飢饉が国を滅ぼしてしまうのです。この国に豊作があったことは、その後続く飢饉のために全く忘れられてしまうでしょう。飢饉はそれほどひどいのです。夢を二度も重ねて見られたのは、神がこのことを既に決定しておられ、神が間もなく実行されようとしておられるからです」(41:25-32)。

ヨセフはこのように夢を解き明かし、知恵のある人を見つけてエジプトを治めさせ、そして管理させるように語りました。

するとファラオは、ヨセフをその役割、総理大臣に任命して、その働きに就かせます。そして世界中の人々が食べる物がなくて困っている中、エジプトの人々は守られます。

ヨセフさんには神さまと一緒にいたからこそ、苦しい時も守られ、そしてエジプトやイスラエルの人たちを救う大切な働きに就くこととなりました。

(お祈り)

神さま、ヨセフさんは神さまを信じ、神さまに祈っていたため、牢屋にいたときも守られました。私たちも今、苦しみの中にいます。神さまを信じ、神さまに祈り続けることができるようにして下さい。そして、苦しみから助け出して下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

ファラオの夢をヨセフが解き明かしたように、エジプトをはじめ周辺諸国では、7年の大豊作の後、7年の大飢饉が訪れます。エジプトの国だけは、ファラオの命令で、ヨセフがすべての食べ物を管理していたため、飢饉になっても困りませんが、周辺の国々は蓄えがありませんので、食べるものに困り、そしてエジプトに援助を求めます。ヤコブの家族も、食べ物がなくなり困っていました。そのため父ヤコブは、一番下のベニヤミンを残して10人をエジプトに行かせます。ヨセフがいなくなったように、ベニヤミンまでも何か不幸なことが起こるといけないと思ったからです(42:4)。

兄弟たちがエジプトに来たとき、ヨセフはお兄さんたちがすぐに分かりました。しかし兄弟たちはヨセフとは気付きません。エジプト人のようであったからです。そしてヨセフは連れてこなかった弟ベニヤミンのことを尋ねます。そしてついには、弟を連れてくるように要求します。そしてヨセフは、兄弟の内の一人をエジプトに残していき、次に来るときに弟を連れてくるように命じて、食料を渡しました。そのため、兄弟たちは、しぶしぶシメオンを残し、食料を得て、帰って行きました。

しかしヨセフは、兄弟たちのことを気遣い、兄弟たちが持って来た銀も、袋の中に戻し、さらにもう一度来ることを願っていました。

一行はカナン地方にいる父ヤコブのところへ帰って来て、自分たちの身に起こったことをすべて報告しました。

月日が経ちますが、飢饉はひどくなるばかりで、収まりません。そのため、もう一度エジプトに行かなければなりません。お父さんのヤコブさんは、弟のベニヤミンを連れていくことを渋ります。しかし、兄弟たちは、ベニヤミンを連れていかなければ、ひどい目にあうことを知っていました。そのため、なんとかベニヤミンを連れていこうと思います。そのため、食料を買うための銀を倍入れ、さらに特産品も一杯持たせました。

そうして、兄弟たちがエジプトに着いた時、ヨセフは、ベニヤミンが一緒であることを確認すると、ヨセフは兄弟たちを食事の場に招きます。そして裏で一人涙を流します。前回の時に銀貨も頂いた事を報告させます。

そして、兄弟たちを年長者から順番にならんでもらい、一緒に食事を取ることにしました。神さまと一緒にいて下さるからこそ、ヨセフさんは信じていました。そして神さまはヨセフさんと兄弟たちが再会できる時を定めて下さいました。だからこそ、私たちも、どれだけ苦しいときであっても、神さまを信じて、神さまに祈り続けなければなりません。

お祈りします。

神さま、ヨセフさんはエジプトで食料を管理する責任者として選ばれ、そして兄弟たちとも再会することが出来ました。私たちも苦しいことが続きますが、神さまと一緒にいて下さいます。神さまを信じて、祈り続けることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン。

ヤコブの12人の兄弟たちの中、ヨセフは兄たちに嫌われ、エジプトに奴隷として売られていきました。しかしヨセフさんには神さまが共にいて下さったから、ヨセフさんは守られていました。王であるファラオが夢を見た時にヨセフさんが夢の説き証しを行ったために、ヨセフさんはすべての管理を任せられ、エジプトの総理大臣として働いていました。

ヨセフさんがファラオの夢を解き明かしたのは、エジプトにおいてこれから7年間の大豊作があるが、その後の7年は大飢饉がきて、食べる物がなくなるから、初めから蓄えておくようにとのことでした。

大豊作が終わり、飢饉の時を迎えました。イスラエルに住んでいたヤコブさんと11人の兄弟たちも、食べる物がなくなり、エジプトに食料を買い付けに来ました。最初の年は、ヤコブさんが一番弟のベニヤミンが、ヨセフと同じように死んでしまったら困るからと、エジプトに行かせませんでした。この時、エジプトの役人から次は末の弟も連れてくるように命じられ、人質としてシメオンさんが残されましたので、次の年にエジプトに行く時には、一番の弟ベニヤミンも連れて行くこととなりました。

ヤコブさんも心配でした。しかし、エジプトに来た時、兄弟たちは食事に招かれます。そしてシメオンさんも一緒になり、そして一番上のお兄さんから順番に並べられ、そして首相のヨセフと一緒に食事を取りました。

その帰る時、多くの食料を積み、帰ろうとしました。しかしこの時、ヨセフは、兄弟たちが代金として持って来た銀をそれぞれに戻し、さらにベニヤミンの袋には銀の杯も一緒に入れました。

兄弟たちが帰って行った後、すぐにヨセフは執事に兄弟たちを追いかけさせ、そして「銀の杯を盗んだらう」と問い詰めます。するとベニヤミンの袋から銀の杯が見つかりました。重罪です。兄であるユダが助けて欲しいと嘆願します。「ベニヤミンを残して、帰ることなど出来ない」と。

そうした時、ヨセフは、もう平静を装うことができなくなり、仕えている者たちを部屋から出て行ってもらい、そして兄弟たちだけになりました。そして、ヨセフは兄弟たちに語ります。「わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか」と。兄弟たちは驚きます。エジプト人の格好をしていたため、ヨセフとはまったく気が付かなかったからです。お兄さんたちは、仕返しされていると思いました。

しかしヨセフは違います。そして兄弟たちに続けて語ります。「わたしはあなたたちがエジプトへ売った弟のヨセフです。しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。この二年の間、世界中に飢饉が襲っていますが、まだこれから五年間は、耕すこともなく、収穫もないでしょう。神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です」。ヨセフさんは、神さまの導きに感謝しました。どれだけ苦しいことがあっても、神さまは共にいてくださり、歩む道をお与え下さいます。

お祈りしましょう。神さま、苦しい時でも、神さまと一緒にいて下さり、助けて下さい。そして、歩む道をお示し下さい。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

子どもメッセージ83 「エジプトに下るイスラエル」 創世記46-47章 2020年7月19日

ヤコブさんの12人の子どもたちは、エジプトにおいて再会することが出来ました。そしてヨセフさんは、ヤコブをはじめ、すべての家族をエジプトに呼び寄せます。

ヤコブさんも、ヨセフさんが生きていたことを喜び、エジプトに下ることを受け入れ、旅立ちます。旅すがら、ヤコブさんは、神様の幻に声をかけられます。46:3~4 神は言われた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトへ下ることを恐れてはならない。わたしはあなたをそこで大いなる国民にする。わたしがあなたと共にエジプトへ下り、わたしがあなたを必ず連れ戻す。ヨセフがあなたのまぶたを閉じてくれるであろう。」

46:26~27 ヤコブの腰から出た者で、ヤコブと共にエジプトへ行った者は、ヤコブの息子の妻たちを除けば、総数66名である。エジプトで生まれたヨセフの息子は二人である。従って、エジプトへ行ったヤコブの家族は総数70名であった。

そしていよいよヤコブが、ヨセフと会うときがやってきます。46:29~30 ヨセフは車を用意させると、父イスラエルに会いにゴシェンへやって来た。ヨセフは父を見るやいなや、父の首に抱きつき、その首にすがったまま、しばらく泣き続けた。イスラエルはヨセフに言った。「わたしはもう死んでもよい。お前がまだ生きていて、お前の顔を見ることができたのだから。」

そして、ヨセフは、ヤコブや家族をファラオに会わせます。47:5~12 ファラオはヨセフに向かって言った。「父上と兄弟たちが、お前のところにやって来たのだ。エジプトの国のことはお前に任せてあるのだから、最も良い土地に父上と兄弟たちを住まわせるがよい。ゴシェンの地に住まわせるのもよかろう。もし、一族の中に有能な者がいるなら、わたしの家畜の監督をさせるがよい。」それから、ヨセフは父ヤコブを連れて来て、ファラオの前に立たせた。ヤコブはファラオに祝福の言葉を述べた。ファラオが、「あなたは何歳におなりですか」とヤコブに語りかけると、ヤコブはファラオに答えた。「わたしの旅路の年月は130年です。わたしの生涯の年月は短く、苦しみ多く、わたしの先祖たちの生涯や旅路の年月には及びません。」ヤコブは、別れの挨拶をして、ファラオの前から退出した。ヨセフはファラオが命じたように、父と兄弟たちの住まいを定め、エジプトの国に所有地を与えた。そこは、ラメセス地方の最も良い土地であった。ヨセフはまた、父と兄弟たちと父の家族の者すべてを養い、扶養すべき者の数に従って食糧を与えた。

このようにして、イスラエルはエジプトに歓迎される形で入ります。しかし神さまは、アブラハムに対して「400年の間奴隷として仕え、苦しめられるであろう。……その後、彼らは多くの財産を携えて脱出するであろう」(創世記15:13,14)とお語りになっていました。神さまの約束は、不思議で、私たちに分からないことも一杯あります。しかし、私たちが神さまを信じて、神さまに祈り続けると、神さまは必ず私たちに恵みをお与え下さいます。

信じて祈り続けて頂きたいと思います。

エジプトの首相になっていたヨセフの所に、ヤコブとその子どもたち、総勢70人がエジプトに下ってきました。ヨセフの家族であることから、王であるファラオからも特別のお持てなしを受けました。

しばらくして、ヤコブが年齢を重ね、死を前にして、子どもたちに祝福を語ります。祝福とは、神さまの恵みが与えられることを語ることです。

最初に、ヤコブは、ヨセフの子どもたちマナセとエフライムに祝福を与えます。本当ならば、ヤコブの12人の子どもたちだけで良かったのですが、ヤコブはヨセフの子どもたちにも祝福を語ります。神さまがヨセフを用いられて、イスラエルを救って下さったことの特別な恵みによります。このことにより、マナセとエフライムも、12人の子どもたちと同じように、神さまからの恵みに満たされ、それぞれ一つの部族となっていきます。

続けてヤコブは、12人の子どもたちに祝福を語ります。それはただ神の恵みを伝えるのではありません。ヤコブは「わたしは後の日にお前たちに起こることを語っておきたい」と語ります。素晴らしいことばかりではありません。しかしこれは神さまからの預言です。

長男のルベンは、長子としての恵みが語られると同時に、罪が指摘されます。

続くシメオンとレビは、似た兄弟として、暴力の道具を扱うと語られます。

ユダは讃えられます。なぜならばユダの子として救い主イエス・キリストが約束されているからです。

ゼブルンは海辺に住むこと、イサカルは骨太のろばと語られます。

ダンは自分の民を裁く、ガドは略奪者に襲われると語られます。

アシェルは豊かな食物が備えられます。ナフタリは美しい子鹿を産むと語られます。

ヨセフは身を結ぶ若木、泉のほとりの身を結ぶ若木、と讃えられます。

そして最後のベミヤミンはかみ裂く狼と語られます。

ユダとヨセフ以外、あまり良いことは語られません。しかし聖書は、「これらはすべて、イスラエルの部族で、その数は十二である。これは彼らの父が語り、祝福した言葉である。父は彼らを、おのおのにふさわしい祝福をもって祝福したのである」と語ります(49:28)。

最後ぐらい、お父さんから良く言われたいと思ったことでしょうか。しかし、神さまから離れていく時、イスラエルの子どもたちであっても、神さまから裁きを受けます。しかし、神さまを信じて、神さまの御言葉に従ったヨセフを特別祝福して下さったように、神さまを信じる私たちに、恵みと祝福をお与え下さい。

お祈りします。神さま、ヨセフさんと二人の息子たちマナセとエフライムは、特別の祝福を受けました。私たちも、神さまを信じて、神さまがお語りになる聖書の言葉に従って生きることができるようにお導き下さい。そして、神さまからの祝福がお与え下さい。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

ヤコブと12人の子どもたちがエジプトに下った時、みんなで70人でした。その後、約400年の年月を経て、ヨセフのことを知らない王となり、イスラエルの人々が、非常に増えていたために、エジプトの王は恐ろしくなり、奴隷として扱い、重労働に付かせます。そして、エジプトの王は、これ以上、イスラエルの民が増えることを恐れます。イスラエルの人々は、毎日、毎日、重労働のためにヘトヘトです。

こんな時、エジプト王ファラオは一つの命令を出します。二人のヘブライ人の助産婦に命じます。一人はシフラといい、もう一人はプアといった。「お前たちがヘブライ人の女の出産を助けるときには、子供の性別を確かめ、男の子ならば殺し、女の子ならば生かしておけ。」

しかし、助産婦はいずれも神を畏れていたため、エジプト王が命じたとおりにせず、男の子も生かしておいた。

エジプト王は彼女たちを呼びつけて問いただした。「どうしてこのようなことをしたのだ。お前たちは男の子を生かしているではないか。」

助産婦はファラオに答えます。「ヘブライ人の女はエジプト人の女性とは違います。彼女たちは丈夫で、助産婦が行く前に産んでしまうのです。」神はこの助産婦たちに恵みを与えられた。民は数を増し、甚だ強くなった。助産婦たちは神を畏れていたため、神は彼女たちにも子宝を恵まれた。

エジプトの王ファラオは、さらに全国民に命じます。「生まれた男の子は、一人残らずナイル川にほうり込め。女の子は皆、生かしておけ。」

せっかく生まれた赤ちゃんを殺せとは、恐ろしいことです。

このような時にも、神さまは、イスラエルの人たちと一緒にいて下さいます。神さまは、イスラエルの人たちを奴隷から救い出すために、一人の赤ちゃんを守られました。それがモーセです。モーセのお母さんは、赤ちゃんが可愛かったので、しばらくは隠していたのですが、3か月になり、どうしようもなく、ナイル川に流します。この時に、ファラオの奥さんが川に来ており、そして赤ちゃんであるモーセを育てるために、引き取っていきます。モーセは、そのため、エジプトの王となる教育を受けることができるようになります。

神さまは、アブラハムに対して、400年後のことを約束して下さいましたが、エジプトで苦しんでいたイスラエルに対して、神さまは約束を果たして下さいます。

私たちにとって、神さまは目に見えませんが、必ず約束を果たして下さいます。だからこそ、私たちは、今、苦しいですが、神さまを信じて、祈っていただきたいと思えます。
(お祈り)

神さま、エジプトで苦しんでいるイスラエルの人たちをお見捨てになることなく、400年前にアブラハムに約束して下さいましたように、救うために、モーセを守って下さいました。私たちも、神さまが助けて下さることを信じて、祈り続けることができるようにしてください。このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

エジプトで奴隷として苦しんでいたイスラエルのことを、主なる神さまは忘れてはいませんでした。エジプト王女に助けられ、王子として育ったモーセは、イスラエルの人々が苦しんでいるのを見て、自分もイスラエル人として生きることを決心します。

モーセはイスラエル人の所に行きます。この時、一人のイスラエル人が、同じイスラエル人をたたいているのを見ました。この時、モーセは辺りを見回し、だれもないのを確かめると、そのエジプト人を打ち殺して死体を砂に埋めた(2)。

誰も見ていないと思っていたのに、見ている人がおり、モーセが人を殺したことが知られるようになり、エジプト王も知りました。そのため、モーセは逃げなければなりません。

エジプトの国を出て、ミディアン地方にたどり着きます。モーセはそこで助けられ、結婚して、そこに滞在することとなりました。

長い年月が経って、エジプト王が死にます。まだイスラエル人は奴隷として苦しんでいます。神さまは、アブラハムと約束されたこと、つまりエジプトで奴隷となっているイスラエルを助けるということ覚えておられます。そしてそれを実行する時が来ました。

モーセは羊の群れを飼っており、ホレブという山に来ました。そのとき、柴の間に燃え上がっている炎の中に主の御使いが現れた。彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているのに、柴は燃え尽きない。……神は柴の間から声をかけられ、「モーセよ、モーセよ」と言われた。彼が、「はい」と答えると、神が言われた。「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから。」神は続けて言われた。「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは、神を見ることを恐れて顔を覆った。主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々としたすばらしい土地、乳と蜜の流れる土地……へ彼らを導き上る。見よ、イスラエルの人々の叫び声が、今、わたしのものに届いた。また、エジプト人が彼らを圧迫する有様を見た。今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。」

そして主なる神は、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」(14)と語られました。

主なる神は、昔おられ、今おられ、未来においてもいつでも変わりなくおられるお方です。400年前のアブラハムへの約束を覚えておられ、実行して下さいます。私たちが苦しんでいる時も、神さまは助けて下さいます。だからこそ、モーセさんが主なる神を信じて、イスラエルを助けるために神さまに従ったように、私たちも、神さまを信じ、神さまの守りと導きを信じるのが求められています。

(お祈りします)

神さま、モーセさんは、イスラエルの人を殺してしまいましたが、神さまは赦して下さいました。そればかりか、神さまはモーセさんをイスラエルを助けるために用いて下さいました。神さまは今も私たちと一緒にいて下さいます。だからこそ守り、助けて下さい。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

主なる神さまは、イスラエルの人たちがエジプトで奴隷として苦しんでいるのを知り、助けるためにモーセをお立て下さいました。心の頑なエジプト王ファラオに対して、主なる神さまは10の奇跡によってイスラエルの民を解放する決断をされますが、神さまは最初から奇跡を行って、普通ではあり得ない神さまの力を使って、ファラオに決断させることは行いません。

最初は交渉です。言葉において確認します。なぜならば、ファラオやエジプト人が何も行っていない時に、神さまが彼らを滅ぼすことはいたしません。神さまの裁きは、神さまが命じたにも関わらず、従わなかった時に行われます。

最初にモーセさんとお兄さんのアロンさんが、エジプト王ファラオの所に行った時、「イスラエルの民を荒れ野に行かせて、お祭りを行わせて下さい」と頼みました。

しかしファラオは、モーセたちの頼みをまったく聞こうとはしません。話しを聞かないばかりか、「イスラエルの民がさぼっているから、このようなことを語るのだ」と語り、今までの以上のきつい仕事を果たすように命令します。

イスラエルの人たちは苦しいです。助けを求めます。ファラオの所に行っても、聞いてもらえません。そしてイスラエルの人たちは、モーセの所に来て、助けを求めます。

そして、モーセさんは、神さまに訴えます。この時、主なる神さまはモーセに語られます。「わたしは主である。わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに全能の神として現れたが、主というわたしの名を知らせなかった。わたしはまた、彼らと契約を立て、彼らが寄留していた寄留地であるカナン土地を与えると約束した。わたしはまた、エジプト人の奴隷となっているイスラエルの人々のうめき声を聞き、わたしの契約を思い起こした。それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい。わたしは主である。わたしはエジプトの重労働の下からあなたたちを導き出し、奴隷の身分から救い出す。腕を伸ばし、大いなる審判によってあなたたちを贖う。……わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると手を上げて誓った土地にあなたたちを導き入れ、その地をあなたたちの所有として与える。わたしは主である。」

モーセやイスラエルの人たちにとって、神さまの助けは、まだまだ先であり、いつなのかと思ってしまいます。しかし神さまにとっては、400年前の約束をこれから果たすと語っておられます。そしてモーセに約束して下さいましたことを実現して下さいます。

私たちにとって、神さまはいつ助けて下さるのだろうか？と思うこともあります。しかし、神さまはそのような時にも一緒にいて見守って下さいます。そして助けて下さいます。だからこそ、私たちは、神さまを信じて、神さまに委ねて祈り続けることが求められています。お祈りしましょう。神さま、コロナ・ウィルスのため、私たちは苦しい日々を送っています。苦しんでいる多くの人たちがいます。神さま、どうか助けて下さい。力をお与え下さい。そして私たちに希望を下さい。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

エジプトで奴隷となっていたイスラエルの人たちを救うために、神さまは、モーセをリーダーとしてお立て下さいました。そして、言葉を語ることが苦手だというモーセに対して、お兄さんのアロンさんが一緒にいて、助けて下さることを約束して下さいました。

そして、モーセがエジプト王のファラオの前に行き、イスラエルを解放するように要求することとなります。しかしファラオは頑固で、モーセの語ることなど聞きません。

そのため、神さまはモーセをとおして奇跡を行うことにより、神の力を示していくこととなります。

最初に挨拶に行った時、モーセは自分の杖を投げることにより、杖は蛇になりました。しかしエジプトの魔術師も同じことを行いました。だからこそ、ファラオはさらに頑固になっていきます。

これからが神さまの奇跡によりエジプトに災いがもたらされていくこととなります。災いは10あります。

最初の災いは、エジプトのすべての川の水を血に変えていきました。人々はそれを飲むことが出来ません。しかしエジプトの魔術師も同じことができました。

次に二つ目の災いとして、蛙がエジプトの国中を覆うこととなります。そして悪臭が国中を覆います。しかし、エジプトの魔術師も同じことを行うことができました。

そして三つの災いです。土のちりを、ぶよにさせて、エジプトの国中を覆うこととなり、家畜を襲うこととなります。しかし、エジプトの魔術師も同じように行いましたが、これは出来ませんでした。そして魔術師はファラオに「これは神の指の働きでございます」と語ります。魔術師は、自分たちの力がないことを分かり、神を信じるほかありませんでした。

しかし、ファラオは心をさらに頑なにします。

これからもこのようなことが繰り返されていきます。

モーセさんにしても、イスラエルの人たちにしても、いつになったら解放されるのだろうと思っていたことかと思えます。長いな、いつかなと思えます。私たちもコロナの中、いつまで続くのだろうと思っています。

しかし、神さまは、解放して下さいる時を定めていて下さいます。だからこそ、モーセは神さまを信じて働き続けました。私たちも、神さまを信じて、神さまがすべてを解決して下さいることを信じて祈り続けて行くことが求められています。

お祈りします。イエスさま、モーセさんもイスラエルの人たちも、我慢することが求められました。私たちも今、我慢しています。神さま、どうか、コロナについても、神さまがすべてを解決して下さいますように、お願いいたします。

このお祈り、イエス様のお名前によって、お祈りします。 アーメン

エジプトで奴隷とされていたイスラエルの人たちを救うために、主なる神はモーセをお立てくださり、奇跡を行わせます。前回、①血の災い、②蛙の災い、③ぶよの災いを確認して来ました。血の災い、蛙の災いではエジプトの魔術師も同じことを行いましたが、3つめのぶよの災いでは行うことができず、主なる神の御業であることを受け入れざるをえませんでした。しかしエジプト王であるファラオの心は、頑なになり、モーセの言うことを聞きません。

モーセが主の奇跡を行う時、最初にモーセがファラオに対して災いが起こるために、イスラエルの民を解放するように求めますが、ファラオはそれを拒否し、その結果として、災いが行われ、ファラオがさらに頑なになることが、繰り返されます。

4番目の災いはあぶの大群がファラオの王宮、家臣の家、エジプト全土に及びます。

5番目の災いではう、エジプト人の家畜が疫病によってすべて死にますが、イスラエルの家畜には被害がまったくありません。ここからははっきりと、主なる神さまが、頑ななエジプトとイスラエルの民を分けることが行われます。

そして6番目の災いは、うみのでる腫れ物が、エジプト人と家畜に生じていきます。

主なる神による奇跡が行われても、エジプトの王ファラオは、頑ななままです。これで終わりだ、これ以上の災いは行われまいだろうと思うのでしょうか。

しかし、主なる神さまは生きて働いておられます。神さまは、モーセによりイスラエルを解放することを約束して下さいました。つまり、エジプトにおける災いは、まだ続くこととなります。ぜんぶで10の災いが、エジプトで行われることとなります。

私たち人間であれば、約束を忘れてしまうかもしれません。しかし、主なる神さまは、約束して下さいたことを忘れることはありません。

だからこそ、モーセもイスラエルの人々も、「まだかな」と思ったことでしょうか、神さまを信じて、神さまにすべてを委ねることが求められます。

私たちも同じです。いつまでコロナのことが続くのか分かりません。不自由な生活です。しかし、神さまがすべてを解決して下さいたことを信じ、神さまに委ね、神さまに祈ることが求められています。

お祈りします。

神さま、モーセやイスラエルの人たちが、いつ解放されるのかと思いつつ待っているように、私たちも、いつまで我慢しなければならないのかと思いつつ、毎日を暮らしています。だからこそ、神さまを信じて、祈り続けることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

エジプトで奴隷とされていたイスラエルの人たちを救うために、主なる神はモーセをお立てくださり、奇跡を行わせます。①血の災い、②蛙の災い、③ぶよの災い、④あぶの災い、⑤疫病の災い、⑥腫れ物の災いと続きます。神さまは、エジプト人を、ファラオの頑なさの故に、災いによって裁きますが、イスラエルの民は守られます。

神さまはモーセさんに、イスラエルの人たちを奴隷から解放することを約束して下さいましたが、その時はまだきません。モーセさんも、まだなのかなと思ったに違いありません。

そして、エジプトに7つめの災いがもたらされます。激しい雹が降ります。モーセさんの予告に恐れをもった人たちは、家畜を避難させますが、ファラオさんや神さまを畏れない人たちは、何もしませんでした。そのため、雹に打たれて死んでいきます。そして農作物も大麦は破壊されていきます。しかし、イスラエルの人々は守られました。ファラオ王は、まだかたくななままです。

エジプトに8つめの災いがもたらされます。いなごがいっぱい富んできます。草や木をすべて食べ尽くします。しかし、イスラエルの人々は守られました。

そしてエジプトに9つめの災いがもたらされます。エジプト人の住んでいる所で、太陽が隠れて、真っ暗になりました。それが三日間続きます。

主なる神さまは、約束されたことは必ず果たして下さいます。しかし同時に、神さまを知らないとい人たち、神さまを信じない人たちに対して、必ず災いをもたらされます。「前にも同じことがあったけど大丈夫だから、いいや」ではダメです。神さまはそのことをいつまでも覚えておられます。だからこそ、悪いことをしたときには、「神さまご免なさい」と謝るようにしなければなりません。神さまの方を向いて、ちゃんと誤るとき、神さまは赦して下さいます。助けて下さいます。

だからこそ、どんなときにも、神さまを信じて、神さまに祈ること、謝ることを、神さまは喜んで下さいます。

(お祈り)

神さま、神さまは私たちのすべてをご存じです。ファラオ王は、神さまに謝ることが出来ませんでした。私たちは神さまに謝ることができるようにしてください。神さまに祈ることができるようにしてください。

そしてどんな時にも、助けて下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

エジプトで奴隷とされていたイスラエルの人たちを救うために、主なる神はモーセをお立てくださり、奇跡を行わせます。①血の災い、②蛙の災い、③ぶよの災い、④あぶの災い、⑤疫病の災い、⑥腫れ物の災い、⑦雹の災い、⑧いなごの災い、⑨暗闇の災いです。

そしていよいよ10番目の災いが神さまによって語られます。神さまはイスラエルの人たちをエジプトの奴隷から解放して下さることを約束して下さっていました。いよいよこの時がやってきます。

そしてモーセさんは王であるファラオに語ります。11:4~8 モーセは言った。「主はこう言われた。『真夜中ごろ、わたしはエジプトの中を進む。そのとき、エジプトの国中の初子は皆、死ぬ。王座に座しているファラオの初子から、石臼をひく女奴隷の初子まで。また家畜の初子もすべて死ぬ。大いなる叫びがエジプト全土に起こる。そのような叫びはかつてなかったし、再び起こることもない。』しかし、イスラエルの人々に対しては、犬ですら、人に向かって家畜に向かって、うなり声を立てません。あなたたちはこれによって、主がエジプトとイスラエルを区別しておられることを知るでしょう。あなたの家臣はすべてわたしのもとに下って来て、『あなたもあなたに従っている民も皆、出て行ってください』とひれ伏し頼むでしょう。その後で、わたしは出て行きます。」

ファラオは、この時も、モーセが語るだけでは、イスラエルの人たちを解放することはされません。今まで9回、モーセさんが語ったとおりエジプトに災いがもたらされたにも関わらず、頑なでした。最初に生まれた人たち、家畜もすべて死ぬと国中で大きな嘆き悲しみに満たされます。

そのため、ファラオは、実際にすべての初子が死んでいくことになって、初めて、恐ろしいことが起こり、主なる神の怒りがもたらされることに気が付き、イスラエル人を介抱することを決断することとなります。

神さまは、約束して下さったことを、必ず成し遂げられます。そして、「求めなさい。そうすれば与える」とお語り下さいました。神さまは、教会に来るみんなのことが大好きです。守って下さいます。助けて下さいます。だからこそ、神さまを信じて、祈り続けていただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、モーセさんに約束して下さったことを、神さまはイスラエルの人たちをエジプトの奴隷から解放することによって、果たして下さいました。そして私たちとの約束も守って下さることを信じます。どうか、コロナの中ですが、みんなを守って下さい。そしていつでも、みんなが、神さまを信じ、神さまに祈り続けることができるようにしてください。このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

神さまは、アブラハムさんに、400年後、奴隷とされているイスラエルの民を救い出すことを約束して下さっていました。400年が経ち、イスラエルの人々は、エジプトで奴隷となっていました。そして神さまは約束を覚えておられ、イスラエルを救うためにモーセをリーダーとしてお立て下さいました。

神さまは、モーセをとおして、エジプトに9つの奇跡を行いました。エジプトの王ファラオは頑固で、イスラエルの民を行かせてくれませんでした。しかし、10番目の災いにより、イスラエルが解放されると、神さまは約束して下さいました。エジプトの初子はすべて殺されていきます。

この時神さまは、イスラエルを救って下さいます。しかし、神の裁きとしての災いがイスラエルに及ばないように、神さまの約束を守るように命じられました。それが「主の過越」の規程です。それは、こういうものです。イスラエルの人たちは、家族ごとに傷のない1歳の雄の小羊を一匹用意しなさい。貧しい人は山羊でもよい。そして、その血を取って、小羊を食べる家の入り口の二本の柱と鴨居に塗りなさい。そして夜に、肉を火で焼いて食べる。また、酵母を入れないパンを苦菜を添えて食べなさい。

そうすると、この夜、神さまは「エジプトの国を巡り、人であれ、家畜であれ、エジプトの国のすべての初子を撃つ。また、エジプトのすべての神々に裁きを行う」とお語りになりました。

イスラエルの人たちは、約束の日までに準備して、そして神さまのお語りになるようにおこないました。すると、その日の夜、エジプトの裁きが行われ、エジプト中が、泣き叫ぶ声が聞こえます。そうした中、イスラエルの人たちは守られ、そしてその夜のうちに、エジプトから脱出していきます。大人の男の人だけで60万人もいました。

このようにして、神さまは、アブラハムさんに約束して下さいたことを、430年ぶりに果たして下さいました。

イスラエルの人たちは、神さまがエジプトで救って下さったことを覚えるために、毎年、過越の食事をして、神さまから救われたことを覚えます。教会では、聖餐式が行われます。イエスさまが十字架に架かれることによって、私たちを救って下さったことを覚えるためです。過越の食事は、私たちの聖餐式と同じ意味を持っています。神さまは私たちを救って下さいます。だからこそ、神さまに感謝し、神さまを信じて、喜んで生きることができます。

お祈りしましょう。

神さま、神さまは、約束して下さいたとおりに、イスラエルの人たちを奴隷から救い出して下さいました。そして神さまは、今も生きて働いておられ、私たちを救い出して下さいます。だからこそ、私たちも、神さまを信じて、神さまの救いに感謝することができるようにしてください。このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。アーメン。

子どもメッセージ93 「火の柱、雲の柱」 出エジプト記13:17~22 2020年9月27日

神さまは、エジプトで奴隷とされていたイスラエルの人々を解放して下さいました。大人の男の人たちだけで60万人もの人がいます。さいたま市の人口位ではないでしょうか。

しかし、それは、まったく自由に、どこへ行ってもよいというものではありません。これだけの人たちが自分勝手に行動すると、滅茶苦茶になるからです。

そのためイスラエルの人たちは、神さまが約束して下さいた土地に行くことが求められます。そこでは、食べるものも満たされ、今までのような苦しみから解放されます。

13:21 主は彼らに先立って進み、昼は雲の柱をもって導き、夜は火の柱をもって彼らを照らされたので、彼らは昼も夜も行進することができた。

13:22 昼は雲の柱が、夜は火の柱が、民の先頭を離れることはなかった。

神さまは、イスラエルの人たちが歩く道をお示し下さいました。それはどのようにしてかと言えば、昼の間は太陽が出ていますが、そこに雲の柱を立てて下さり、歩く道を示して下さいました。そして夜になり太陽が沈むと、火の柱が導いて下さいます。みんなが見えるように、神さまが行く道をお示し下さったため、だれも迷うことはありません。

私たちが神さまを信じています。しかし、私たちのための雲の柱や火の柱はありません。しかし、まったく何もないではありません。神さまは、私たちに聖書をお与え下さいました。聖書は、私たちがどこへ行けば良いのか分からなくなった時に、私たちが判断して歩むべき道をお示し下さいます。こっちの道へ行けば悪いことがあるから行ってはならないとか、こっちを選べばしんどいかも知れないけれども正しい道ですよと、判断する基準をお与え下さいます。

だからイエスさまもお語りになります。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」(ヨハネ14:6)。だからこそ私たちは聖書を読むのです。そしてお祈りして、私たちが正しい道を判断して歩むことができるように、神さまにお願いするのです。

お祈りしましょう。

神さま、私たちは、何が正しいのか分からなくなります。しかし、神さまは、私たちに正しい道をお示し下さいます。だからこそ、私たちが迷わないように、私たちの進む道をお示し下さい。そのために、私たちが聖書を読み続け、また神さまに祈ることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

エジプトで、奴隷であったイスラエルの人々は、モーセによって救い出され、神さまが約束して下さった土地であるカナンに向けて歩み始めました。神さまは、イスラエルの人々が迷うことなく歩くために、夜は光の柱、昼は雲の柱により、導いて下さいました。

しかし、イスラエルの人々は、楽しく旅を行うことができませんでした。エジプトの王ファラオが、イスラエルを解放したことを後悔して、軍隊を率いて追って来たからです。そして、イスラエルの人々の前には、海があります。後ろにはエジプトの軍隊が迫ってきています。

この時、イスラエルの人々は口々に語り始めます。「我々を連れ出したのは、エジプトに墓がないからですか。荒れ野で死なせるためですか。一体、何をするためにエジプトから導き出したのですか。我々はエジプトで、『ほうっておいてください。自分たちはエジプト人に仕えます。荒れ野で死ぬよりエジプト人に仕える方がましです』と言ったではありませんか。」

しかし、モーセは民に答えた。「恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。あなたたちは今日、エジプト人を見ているが、もう二度と、永久に彼らを見ることはない。主があなたたちのために戦われる。あなたたちは静かにしていなさい。」

そして主はモーセに言われた。「なぜ、わたしに向かって叫ぶのか。イスラエルの人々に命じて出発させなさい。杖を高く上げ、手を海に向かって差し伸べて、海を二つに分けなさい。そうすれば、イスラエルの民は海の中の乾いた所を通ることができる。しかし、わたしはエジプト人の心をかたくなにするから、彼らはお前たちの後を追って来る。そのとき、わたしはファラオとその全軍、戦車と騎兵を破って栄光を現す。わたしがファラオとその戦車、騎兵を破って栄光を現すとき、エジプト人は、わたしが主であることを知るようになる。」

モーセが海に向って手を差し伸べると、海は乾き、そこに道ができました。そしてイスラエルの人々がそこを渡っていきます。イスラエルの人々が皆渡り終えた後、海の水が戻り、エジプトのファラオが率いる軍隊を呑み込んでいきます。

神さまはどのような時にも、イスラエルを守って下さいました。神さまは同じようのみんなのことが大好きで、守って下さいます。だからこそ、神さまを信じて、神さまに祈り続けて頂きたいと思います。

お祈りします。

神さま、イスラエルの人たちは、奴隷から救われたばかりか、その後も、いつも神さまが守って下さいました。同じように、いつでも、私たちがまもってくださいますように、お願いします。

このお祈り、イエスさまのお名前によって、お祈りします。 アーメン。

主なる神さまは、エジプトで奴隷で苦しんでいたイスラエルの人たちを助け出して下さいました。イスラエルの人たちは、モーセを先頭に約束の地に向かっていきます。

しかし、イスラエルの人たちは、食事を十分の食べることができなくなり、「飢えて死んでしまう！」と、不平をモーセさんに語り始めました。

この時、神さまは、モーセさんに、「主は夕暮れに、あなたたちに肉を与えて食べさせ、朝にパンを与えて満腹にさせられる」ことを約束して下さいました。夕方にはうずらの肉、朝にはマナと呼ばれるようになるパンが毎日与えられます。人々は、毎日、一日分を取りに行きます。多くとっても、翌日になると腐って食べられません。しかし、安息日の前の日は、2日分が与えられます。そして安息日になっても腐ることはありません。

荒野の砂漠を歩き続けるイスラエルの人々は、このように神さまから与えられた肉とマナによって満たされました。

神さまは、イスラエルの人たちが、約束の土地カナンに入るまでの40年間、毎日、肉とマナをお与え下さいました。

神さまは、このように、人々の不平・不満であっても、イスラエルの人たちに必要なことは、備えて下さいます。だからこそ、イエスさまは、このように語られています。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたのだれが、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。……あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない」(マタイ7:7~11)。

だからこそ、みんなも、嫌なことが一杯あるかと思いますが、そうした時、イスラエルの人たちのように「嫌や」と文句をいうのではなく、神さまにお願いの祈りをしてほしいなと思います。そうすれば、本当のことを知っておられる神さまは、みんなの祈りを聞いて下さいます。

不平・不満を語るのではなく、神さまを信じて、お祈りしてほしいなと思います。

お祈りします。

今日は、多くのお友だちと共に教会に来ることができてありがとうございます。

神さまはイスラエルの人たちの不満の声を聞いて下さったように、私たちの祈りをいつも聞いて下さい。そして私たちも、神さまに祈ることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお献げします。 アーメン

エジプトで奴隷であったイスラエルの人たちは、主なる神さまがリーダーとして立ててくださったモーセにより救い出され、エジプトを脱出することができました。そして、主なる神さまは、イスラエルの人たちが歩く道を夜は火の柱、昼は雲の柱によって指し示してくださいます。

しかし、イスラエルの人たちには苦しみが続きます。後ろからエジプトの王と軍隊が迫ってきたからです。イスラエルの人たちの前には、海が迫っています。この時にも、神さまは、海を開き、歩く道をお与え下さいました。そして後ろから迫ってきたエジプトの軍隊と王は滅んでいきました。

食べ物がなくて苦しいと語れば、マナとうずらの肉をお与え下さいました。イスラエルの人たちは、神さまが助けて下さることをはっきりと知ることができました。

しかし、苦しくなると、また不平不満を語ります。今度は飲み水がありません。民がモーセと争い、「我々に飲み水を与えよ」と語ります。またさらに「なぜ、我々をエジプトから導き上ったのか。わたしも子供たちも、家畜までも渴きで殺すためなのか」と。

この時、モーセさんは主なる神さまに、「わたしはこの民をどうすればよいのですか。彼らは今にも、わたしを石で打ち殺そうとしています」と叫びます。

そうすれば、主なる神さまはモーセに言われます。「イスラエルの長老数名を伴い、民の前を進め。また、ナイル川を打った杖を持って行くがよい。見よ、わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる。」

モーセさんは、神さまが語られるとおりに行いました。そうすると水が出て来て、人々が飲むことができました。

イスラエルの人たちは、神さまから奇跡により多くのプレゼントを頂きながら、神さまを信じることなく、文句ばかり語っていました。しかしモーセさんは、神さまを信じて、神さまに祈り求めることにより、神さまはモーセの祈りを聞いて下さいました。今も神さまは、みんなと一緒にいて下さいます。みんなのことが大好きです。

だからこそ、困った時、嫌なことがあった時、神さまにお祈りしていただきたいと思えます。神さまはいつでもみんなのことを助けて下さいます。

お祈りしましょう

神さま、モーセさんが神さまを信じて祈ったように、私たちも、いつでも神さまにお祈りすることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

子どもメッセージ97 「救われた民に与えられる十戒」 出エジプト記20章1～2節

2020年11月1日

エジプトで奴隷とされ、毎日苦しい働きが強いられていたイスラエルの人たちを、主なる神さまは、モーセさんをリーダーとしてお立て下さり、エジプトのファラオ王から救い出して下さいました。

そして、イスラエルの人たちは今、神さまが約束して下さったカナンに向かって、旅を続けています。そしてシナイ山に差し掛かった時、神さまは、モーセさんに対して、シナイ山に登るように命令されました。そして、一人、シナイ山に登ってきたモーセさんに対して、主なる神さまは、十戒をお与え下さいます。

十戒では、私たちが神さまの子どもとして歩む時に大切な10の言葉が語られていますが、よく誤解されます。なぜならば「～してはならない」と繰り返し語られているからです。

「あれをしてはならない」、「これもしてはならない」と語られると、「つまらないな」、「こんなの嫌だ」と思ってしまうからです。

しかし、神さまがモーセさんに十戒を下された時の、最初の言葉を確認することが大切です。それが、ここに記されています。

「わたしは主、あなたの神、
あなたをエジプトの国、
奴隷の家から導き出した神である」。

神さまは、モーセさんに奇跡を行わせて、イスラエルの人たちを奴隷から救い出したのは、私ですよ、とお語りになられています。今も毎日、イスラエルの人たちはマナを食べています。このことを神さまは最初に語られました。

つまり、「～しなければならぬ」と語られていますが、「～しなければ、救われぬ」のではありません。神さまはもう、イスラエルの人たちを救って下さっています。救われているあなたたちが、神さまの子どもとして歩むために、罪に陥らないために、十戒を与えるのですよと、神さまはお語り下さっています。

だからこそ、私たちが十戒を学ぶ時も、神さまはもう私たちを救って下さり、神の子どもとして受け入れてくださっているのだから、誘惑に負けることなくクリスチャンとして生きるために、十戒が与えられているのだということをお覚えいただきたいと思います。

お祈りします。

神さま、私たちが神の子どもとしてクリスチャンとして生きるために、十戒をお与え下さり、ありがとうございます。私たちが神さまの子ども、クリスチャンとして十戒を守ることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

モーセさんによってエジプトから救い出されたイスラエルの人たちは、神さまが約束して下さったカナンに向かって歩いていました。神さまは、イスラエルの人たちが歩く道を備えて下さいます。イスラエルの人たちが食べるもの、飲むものをお与え下さいます。

そうした中、神さまは、モーセさんに一人でシナイ山に登ってくるように命じられました。この時に、神さまが、モーセさんにお与え下さったのが、十戒（10の言葉）でした。

前回、この十戒は、救い出されたイスラエルの人たちに与えられたものであって、10の戒めを守らなければ救われないのではないですよ、とお語りしました。

そして十戒は、2枚の板に記されていました。第一戒から第四戒が1一枚目の板で、第五戒から第十戒が2枚目の板に記されていました。第1の板と、第2の板とでは、語られていることが違います。今日は、第一の板について学びます。

十戒の第一の板には、次のようなことが記されています。

十戒（第一の板）

- ①他の神を信じてはいけない
- ②偶像を拜んではいけない
- ③神の名を蔑んではいけない
- ④日曜日に神を礼拝しよう

すべてが神さまに関するお約束です。「～しなければならない」と語られると、嫌だなと思うかも知れません。しかし、神さまがみんなを愛して下さり、大好きだから、救って下さったことを覚える時、神さまのことを好きになるために必要なことですよと語られています。だからこそ、聖書には、このように語られています。

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」。

みんなのことが大好きで、救って下さり、いつでもみんなのことを見守って下さる神さまがいます。だからこそ、みんなも、神さまを信じて、神さまの言葉に従って欲しいなと思います。

お祈りします。

神さま、イスラエルの人たちを救って下さったように、私たちも救って下さり、ありがとうございます。そして、みんなが神さまを信じて、神さまを礼拝することができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

モーセさんによってエジプトから救い出されたイスラエルの人たちは、神さまが約束して下さったカナンに向かって歩いていました。神さまは、イスラエルの人たちが歩く道を備えて下さいます。イスラエルの人たちが食べるもの、飲むものをお与え下さいます。

そうした中、神さまは、モーセさんに一人でシナイ山に登ってくるように命じられました。この時に、神さまが、モーセさんにお与え下さったのが、十戒（10の言葉）でした。

この十戒は、救い出されたイスラエルの人たちに与えられたものであって、10の戒めを守らなければ救われないではありません。神さまはイスラエルの人たちを奴隷から救って下さった上で、この十戒をお与え下さいました。十戒は救われるために守るものではありません。

そして十戒は、2枚の板に記されていました。第一戒から第四戒が1一枚目の板で、第五戒から第十戒が2枚目の板に記されていました。第1の板と、第2の板とでは、語られていることが違います。今日は、第一の板について学びます。

十戒の第二の板には、次のようなことが記されています。

- ⑤父母を敬いなさい。
- ⑥殺してはならない
- ⑦姦淫してはならない
- ⑧盗んではならない
- ⑨ウソをついてはならない
- ⑩他人のものを欲しがってはならない

すべてが神さまに関するお約束です。「～しなければならない」と語られると、嫌だなと思うかも知れません。しかし、神さまがみんなを愛して下さい、大好きだから、救って下さったことを覚える時、神さまのことを好きになるために必要なことですよと語られています。だからこそ、聖書には、このように語られています。

「隣人を自分を愛するように愛しなさい」。

みんなのことが大好きで、救って下さり、いつでもみんなのことを見守って下さる神さまがいます。だからこそ、みんなも、神さまを信じて、神さまの言葉に従って欲しいなと思います。

お祈りします。神さま、イスラエルの人たちを救って下さったように、私たちも救って下さり、ありがとうございます。そして、みんなが神さまを信じて、教会に来ている人たちと仲良く、また助け合うことができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン

エジプトにおいて奴隷であったイスラエルの人たちを、主なる神さまは、モーセによって救い出してくださいました。そして、シナイ山で、10の言葉の板（十戒）をお与え下さいました。十戒は大切なのでおさらいしておきますが、神さまによって救われたイスラエルの人たちが、罪を犯したりしないように、守って下さるためにお与え下さいました。十戒を守らなければ救われないではありません。

そして、この十戒は、神さまに愛された者が、神さまを愛するように唯一の神を礼拝すること、そして神さまが愛して下さったまわりの人たちを愛するために、戒めを守るように求められました。

しかし、毎日マナやうずらが与えられ、十戒が与えられても、それだけでは神さまの救い、神さまの愛を忘れてしまいます。自分で規準を作ってしまう。だからこそ、神さまは、神さまを礼拝する場所を用意して下さいます。それが幕屋です。神さまを礼拝する場といっても、イスラエルの人たちは、40年間、荒野で旅を続けなければなりません。

そのため、神さまを礼拝する場としての幕屋、つまりテントを作るように求められます。神さまがおられるとされる至聖所には、十戒の板が収められた契約の箱が置かれています。そしてイスラエルの人たちに求められたのは、毎日、礼拝すること、そして特に罪の悔い改めのために、動物の生け贄を献げることでした。

イスラエルの人たちにとって、救い主であるイエスさまが来られるまで、まだ長い時間があります。そのため、動物の死により、神による自分たちの救いを確認することが求められました。

そして、イスラエルの人たちが移動する時は、テントである幕屋をたたんで、持って移動させることが求められました。イスラエルの人たちは、神さまが約束して下さったエルサレムに到着するまで、幕屋での礼拝を続けることが求められます。

そして救い主であるイエスさまが来られ、十字架に架かれるまで、動物の生け贄を行うことが求められました。

私たちは、今、イエスさまが、十字架で死に、復活して下さい、救いが与えられたから、幕屋で礼拝したり、動物の生け贄を献げたりすることは求められません。そして今も、神さまは私たちに、神さまの救いを忘れないように、日曜日毎に礼拝することを求めておられます。

お祈りします。主なる神さま、今日も神さまを礼拝することができ、ありがとうございます。旧約の人たちに幕屋が与えられたように、私たちには神さまを礼拝する場として、教会が与えられていますことに感謝します。どうか、神さまの救いに感謝して、毎週、神さまを礼拝することができるように導いて下さい。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

2020年11月29日

今日からアドベント、イエスさまがお生まれになられたことを覚える一ヶ月を迎えます。ただ、出エジプト記の学びが、ちょうど区切りになりますので、もう一度、出エジプト記から学びます。

奴隷から解放されたイスラエルの人たちは、約束の地に向かっています。そして神さまは、モーセさんに、シナイ山に登ってくるように求められ、そこで十戒をお与え下さいました。神さまがイスラエルを愛して下さい、救って下さったのですが、神さまの恵みを忘れるために、神さまに従うことができるように、戒めをお与え下さったのです。

しかし、ふもと、山の下では、イスラエルの人たちが待たされています。何日も何日も経ち、モーセさんはもう帰ってこないのではないかと、考える人たちもでてきました。そのため、モーセさんに代わって、主なる神さまに仕えるものを考え、金の子牛の像を作ることを考え出しました。そして、イスラエルの人たちから金の耳輪などを持ってこさせ、それで金の子牛を作り、「これこそが主なる神さまである」と言って、礼拝しました。

主なる神さまは、すべてを御覧になり、イスラエルの人たちが行っていることを知っておられます。だからこそ、モーセに対して、「すぐに山をくだりなさい。イスラエルの人たちが墮落して、偶像を拝んでいる」、「わたしの怒りは彼らに対して燃え上がっている」と語られます。そのことに対してモーセは「どうか、燃える怒りをやめ、ご自分の民にくだす災いを思い直してください。あなたは彼らに自ら誓って、『わたしはあなたたちの子孫を天の星のように増やし、わたしが与えると約束したこの土地をことごとくあなたたちの子孫に授け、永久にそれを継がせる』と言われたではありませんか」と執り成しの祈りを行います。

主なる神さまは、怒りを静め、災いを行うことを思い直して下さいました。

そしてモーセが山を下っていくと、金の子牛の像がありました。そのため、モーセは神さまから頂いた十戒が書かれている石の板を投げつけ、金の子牛を火で焼きました。

神さまはすべてをご存じです。偶像を作ったり、拝んだりすること、神さまの語られることを守らないことを悲しまれ、赦すことができません。神さまは私たちのこと、みんなのことが大好きです。だからこそ罪から救って下さり、教会へお集め下さっています。だからこそ、偶像をつくったりすることなく、神さまを信じて、礼拝し続けて頂きたいと思えます。

お祈りします。神さま、イスラエルの人たちは、モーセさんがいなくなり、自分たちで金の子牛を作り、神としました。私たちも、今、神さまを見ることはできません。しかし、聖書をとおして神さまは語って下さいます。礼拝し、祈りを聞き届けて下さいます。だからこそ、私たちが神さまを信じ、神さまを礼拝し続けることができるようにしてください。

このお祈り、イエスさまのお名前によってお祈りします。 アーメン